



佐賀県立九州陶磁文化館
平成25年度 年報・資料目録 No.33

Annual Report &
Catalogue of Collections No.33
The Kyusyu Ceramic Museum
2013.4～2014.3

は じ め に

このたび、平成 25 年度の事業概要をまとめました。

平成 25 年度は特別展「江戸のモダニズム 古武雄—まぼろしの九州のやきもの」、平成 24 年度に寄贈された森正洋の作品を展示した、寄贈記念「森正洋 使う器展」など九州陶磁文化館独自の企画展示を行いました。

主催した 5 つの展覧会をはじめ、全部で 16 の展覧会が開かれ、陶芸文化の向上に貢献しました。

教育普及活動では、生涯学習の一環として、一般の方を対象にした館蔵の名品に触れて鑑賞する陶芸文化講座を開催しました。

この他、全国各地の機関から依頼された調査研究活動などへの協力も行いました。

また、今年は新しい試みとして、これまで以上に多くの方々にご来館頂けるよう「九陶バザールン♪」をはじめ、様々なイベントを行いました。

当館の各種事業についても、今後、一層の充実に努めてまいりますので、引き続き関係各位の御指導と御協力をお願い申し上げます。

佐賀県立九州陶磁文化館
館 長 鈴田 由紀夫

目 次

はじめに	1
目 次	2
館の概要	
設立の目的 活動の目的	3
沿革 施設・設備の概要	4
組織・職員等	7
佐賀県立博物館施設資料購入指針	9
佐賀県立九州陶磁文化館資料取扱規程	10
佐賀県立九州陶磁文化館施設等の使用に関する取扱要領	13
事業日誌	14
展示活動	
1. 常設展	15
2. 企画展・テーマ展など	25
3. 利用状況	38
4. 館蔵資料の貸出	39
5. 資料閲覧・写真撮影・フィルム借用・印刷物等掲載・複製申請処理	39
教育普及活動	
1. 展示案内	40
2. 陶芸実習室の利用	41
3. 地域主催イベントとの関連行事	42
4. 陶芸文化講座	44
5. 博物館実習	44
6. 印刷物等の刊行	45
7. 資料鑑識	45
8. 講演など	45
調査研究活動	
1. 調査	46
2. 調査協力など	46
資料収集活動	
1. 陶磁資料の収集	47
2. 図書資料の収集	47
館蔵資料目録	48

館の概要

設立の目的

佐賀県立九州陶磁文化館は、肥前陶磁器をはじめ、各地域において、独自の伝統を継承発展させてきた九州の陶磁器に関し、その文化遺産の保存と陶芸文化の発展に寄与する目的で設立されました。

そのため、歴史的、美術的、産業的にみて重要な資料をあまねく収集・保存・展示し、あわせて調査研究や教育普及活動を行います。

したがって当館は、九州の陶芸文化に関する総合的施設の位置にあるばかりでなく、国際的にも注目される存在となることをめざしています。

活動の目的

・展示活動

展示室は、5室に分かれ、そのうち固定展示室（第4展示室）においては、九州の陶磁の歴史を、実物あるいは図表・年表・写真などによって学ぶことができる仕組みになっています。柴田夫妻コレクション展示室（第5展示室）は江戸時代の有田焼を多数展示しています。他の3室では、企画展、その期間外は九州の古陶磁や現代陶芸の常設展示、あるいは随時個人もしくは団体の陶芸展を開催しています。

・収集活動

国の内外を問わず、九州の陶磁に関して、歴史的、系譜的に資料（陶磁器・出土資料・古文書・古記録等）の調査収集を行っています。また資料の充実を図るため、資料の購入をはじめ寄贈・寄託資料の受入れにも努力しています。

・調査研究活動

九州の陶芸あるいは陶磁産業を歴史的・総合的に明らかにするために、考古学・美術工芸史など色々な分野にわたる資料・文献の調査収集に努めています。また、学術講演会や研究の交流を通じて研究の進展を図っています。

・教育普及活動

陶芸文化講座等を行って陶芸文化に対する理解を深め、さらに陶芸実習室を創作活動の場として提供するなど、広く陶芸文化に関する普及活動を行っています。



沿革

- 昭和 48. 1. 8 有田町長外、国際陶芸美術館建設について陳情
- 昭和 51. 4 陶芸文化施設調査費を計上
52. 4 陶芸文化施設調査費を計上
52. 6 佐賀陶芸文化センター（仮称）建設計画案を作成
52. 11 基本設計委託をアルセッド建築研究所と契約
52. 11. 24 第1回佐賀県陶芸文化センター建設委員会開催
52. 12. 8 佐賀県陶芸文化センター建設促進協力会設立（会長 鍋島直紹）
53. 2. 28 基本設計完了
53. 3. 29 建設費関係予算決定（約 19 億円）
53. 4. 1 専任職員 3 名を配置
53. 11. 15 建設工事入札
53. 12. 20 設備工事入札
53. 12. 27 用地譲渡契約締結（有田町より無償譲渡）
54. 1. 16 起工式
54. 5. 11 正式名称打合会（「西日本陶磁文化館」の案）
54. 7. 6 正式名称「佐賀県立九州陶磁文化館」
（英文名称 THE KYUSHU CERAMIC MUSEUM）と決定
54. 10. 3 外構・植栽工事入札
55. 3. 25 佐賀県立九州陶磁文化館竣工（建設工事費：1,745,100 千円）
55. 3. 27 佐賀県立九州陶磁文化館条例・同管理規則等を公布
55. 11. 1 開館
- 平成 元. 6. 12 染付鷲文三足大皿が重要文化財に指定
5. 3. 25 柴田夫妻コレクション展示室完成
5. 4. 29 柴田夫妻コレクション展示室が常設展の一室として開室
6. 4. 1 旧窯業技術センター跡地(12,011.00 m²)を当館敷地として所管換
12. 2. 22 玄関自動ドア設置
12. 12. 4 染付山水文輪花大皿が重要文化財に指定
12. 12. 28 からくり時計設置
14. 3. 20 来館者用トイレ改修・増設
18. 3. 31 有田磁器（柴田夫妻コレクション）10,311 点が国登録有形文化財（美術工芸品）に登録

施設・設備の概要

- 所在地** 佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙 3100-1
- 設計管理** 内田祥哉＋アルセッド建築事務所
- 施工業者** (1) 建築・外構…住友建設・松尾建設共同企業体
(2) 設備工事・電気設備…新生電気・宮園電気共同企業体

(3) 空調設備…丸紅設備・昭栄設備工業共同企業体

(4) 給排水設備…葉隠設備工業（株）

(5) 植栽…中村永楽造園土木（株）

工 期 昭和 54 年 1 月 16 日～昭和 55 年 3 月 25 日

規 模 (1) 敷地面積：43,619.59 m²

(2) 建築面積：3,831.93 m²

(3) 延床面積：6,526.54 m²

(4) 構 造：鉄筋コンクリート造地上 2 階、一部 3 階建

主要設備 (1) 電気設備

契約電力：320kw（6,000V 受電） 発電機：80kw（220V）

(2) 空調設備

冷 暖 房：吸収冷温水機（能力 544,320.0 kcal/h）平成 6 年施工

そ の 他：防排煙連動操作設備（防火シャッター、排煙ファン）等

(3) 給排水設備

給水設備：町水道使用、受入槽 30t（15t 2 基）

排水設備：町公共下水道

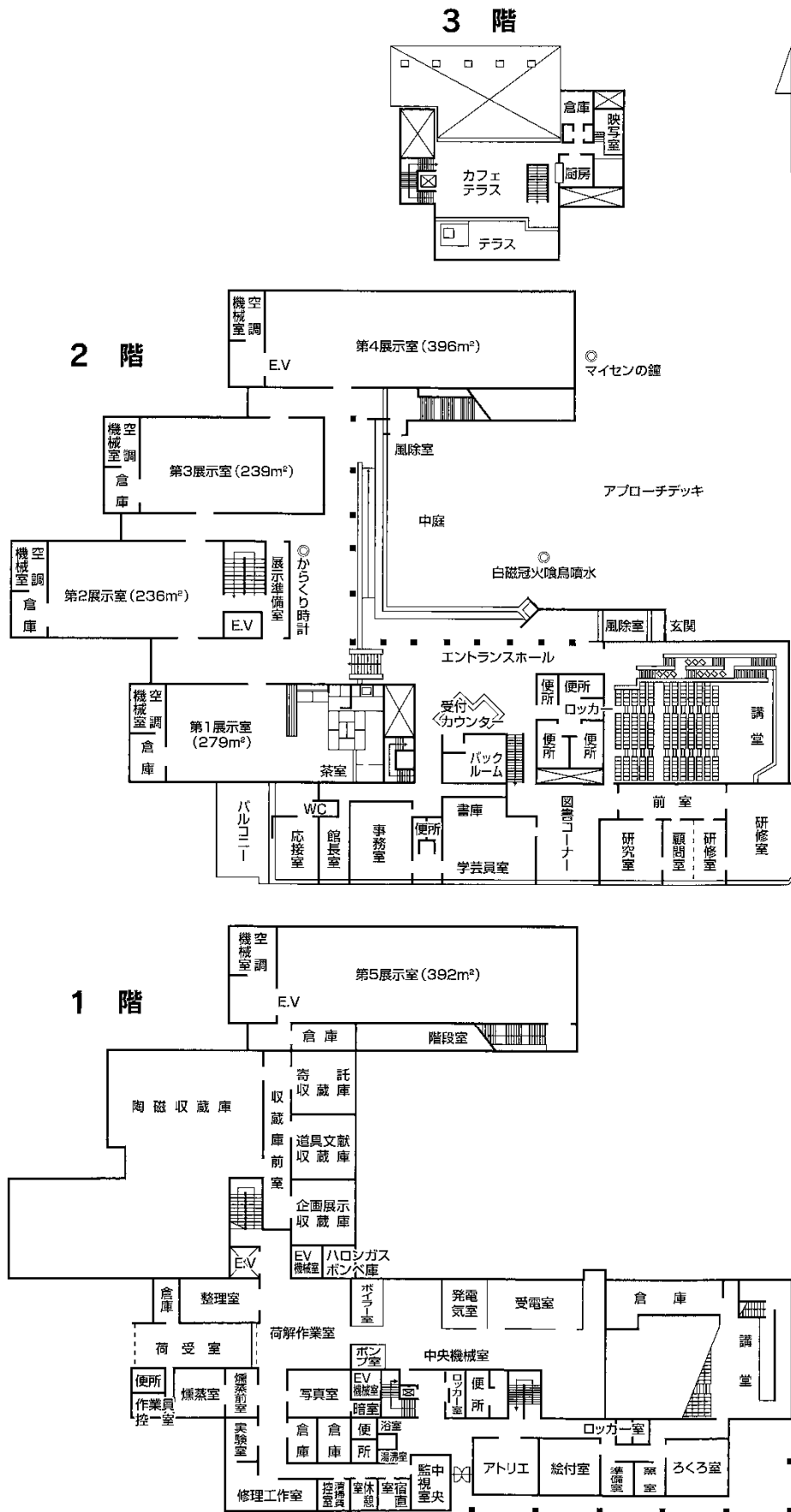
消火設備：屋内消火槽、ハロンガス消火設備等

そ の 他：給湯設備、身障者便所等

[単位：m²]

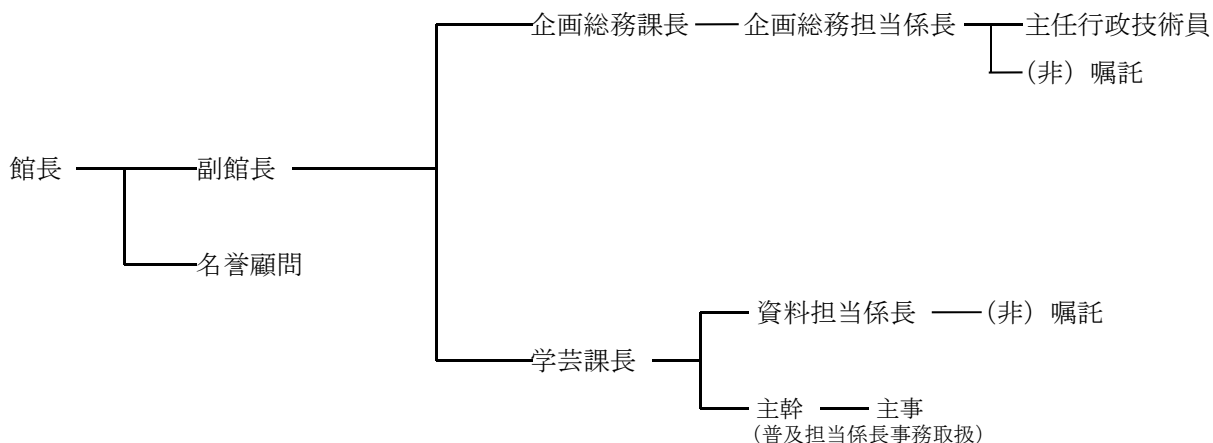
部 門	室 名	室数	面 積	部 門	室 名	室数	面 積
展示施設	一般展示室	1	279.56	研究施設	研 究 室	1	54.58
	企画展示室	1	236.95		実 験 室	1	19.21
	常設展示室	1	239.54		そ の 他	1	56.05
	固定展示室	1	396.26	小 計		129.84	
	柴コレ展示室	1	392.13	管理施設	機 械 室		355.69
	展示準備室・倉庫	1	169.70		事 務 室 等		553.99
小 計			1,714.14	小 計		909.68	
収蔵施設	陶磁収蔵庫	1	532.68	共通施設	展 示 ホール		406.73
	道具・文献収蔵庫	1	61.72		エントランスホール		284.15
	寄託収蔵庫	1	43.78		そ の 他		868.61
	企画・展示収蔵庫	1	52.44		小 計		1,559.49
	そ の 他		553.80				
小 計			1,244.42				
研修施設	講 堂	1	385.49				
	陶芸実習室	4	122.38				
	一般研修室	2	203.76				
	図書コーナー	1	102.49				
	そ の 他		154.85				
小 計			968.97	合 計			6,526.54

施設平面図



組織・職員等

1. 組織



2. 職員

職名	氏名	分掌事務
館長	鈴田 由紀夫	館の総括
名誉顧問	大橋 康二	名誉顧問
副館長	松尾 みどり	館の総括補佐
企画総務課長	井崎 憲二	課の総括
企画総務担当係長	大坪 千津美	予算執行、決算、給与(等)、旅費、福利厚生
主任行政技術員	池田 良人	広報、庁舎・財産管理、文書、収入(図録等以外)
嘱託	高塚 亜弥	収入(図録等)、物品管理
学芸課長	家田 淳一	課の総括
資料担当係長	藤原 友子	資料調査回収集、展示
嘱託	増田 圭	観覧者への説明案内、予約管理、コンピュータによる文書、情報等の処理
主幹 (普及担当係長事務取扱)	徳永 貞紹	教育普及・展示
主事	山本文子	教育普及・展示

平成 26 年 3 月 31 日現在

3. 協議会委員（任期：平成 25 年 6 月 23 日～平成 27 年 6 月 22 日）

氏 名	役 職 名
飯 笹 貞 子	宗徧流佐賀支部 副支部長
今 泉 今右衛門	色鍋島今右衛門技術保存会 会長
岩 崎 裕 里	筑紫女学園大学 非常勤講師
宇都宮 忠	佐賀新聞社 論説委員
緒 方 知 美	筑紫女学院大学 講師
尾 崎 葉 子	有田町歴史民俗資料館 館長
古 賀 善 行	佐賀県議会議員
酒井田 柿右衛門	柿右衛門製陶技術保存会 会長 (H.26.3.19～)
田 代 正 昭	有田町 町長
中里 太郎右衛門	佐賀県陶芸協会 副会長
深 川 祐 次	有田商工会議所 会頭 (H.26.3.19～)
前 田 なつき	西有田中学校 教諭
今 泉 洋 子	有田町地域婦人会 副会長
岸 ゆかり	有田町 教育委員

平成 26 年 3 月 31 日現在

4. 資料専門委員会（任期：平成 25 年 9 月 1 日～平成 27 年 8 月 31 日）

氏 名	役 職 名
今泉 今右衛門	色鍋島今右衛門技術保存会 会長
尾 崎 直 人	元福岡市美術館 学芸員
酒井田柿右衛門	柿右衛門製陶技術保存会 会長 (H.26.3.3～)
中里太郎右衛門	佐賀県陶芸協会 副会長

平成 26 年 3 月 31 日現在

佐賀県立博物館施設資料購入指針

(趣旨)

第1条 この指針は、規則その他規程に定めがあるものを除き、佐賀県立博物館・美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県立名護屋城博物館、佐賀県立佐賀城本丸歴史館（以下「各館」という。）の資料購入を行うための、必要な事項を定めるものとする。

(資料収集調整委員会)

第2条 各館の購入資料は、すべて別途定める「佐賀県立博物館施設資料収集調整委員会（以下「委員会」という。）」において、選定するものとする。

(資料購入費の配分)

第3条 委員会事務局は、各館の購入実績等を踏まえ、事前に資料購入費の一応の目安額となる配分額を示すものとし、その調整は委員会において行うこととする。

2 購入資料の選定後、文化課は各館からの申請により資料購入費を再配当する。

(購入予定資料の評価)

第4条 委員会で選定した購入資料のうち、一件の購入予定価格が400万円以上のものについては、当該資料と直接利害関係を有しない複数の学識経験者等に意見を求めるものとする。また、購入予定価格の如何を問わず、評価が困難なものについても同様の取扱とし、適正な評価に努めなければならない。

(購入の取りやめ)

第5条 前条の評価の結果、購入が適当でない場合や市場の変化等により購入が不可能となった場合の購入取りやめの判断は各館の館長が行うものとする。なお、その際は委員会事務局へ速やかに報告することとする。

(資料の購入先)

第6条 資料購入先は、同一業者に偏向しないように配慮する。なお、原則として、年に1,000万円以上の取引が過去3ヶ年以上継続した業者からの購入は1年間見合わせる。

附則

(適用期日)

1 この指針は、平成24年5月9日から適用する。

佐賀県立九州陶磁文化館資料取扱規程

(趣旨)

第1条 この規程は、佐賀県立九州陶磁文化館（以下「陶磁文化館」という。）が陶磁文化館資料（佐賀県財務規則（平成4年佐賀県規則第35号。以下「財務規則」という。）第143条第2項の規定による物品分類表中博物館資料に分類される物品をいい、以下「資料」という。）の購入、寄贈、寄託、一時預り、貸出し、公開等を行う場合における資料の管理・保管の方法について、財務規則に定めるもののほか必要な事項を定めるものとする。

(資料の分類)

第2条 資料の分類は、別表1の分類により整理するものとする。

(資料の購入)

第3条 陶磁文化館で購入する資料は、すべて佐賀県立九州陶磁文化館資料専門委員会（以下「資料専門委員会」という。）で選考し、佐賀県立博物館施設資料収集調整委員会（以下「調整委員会」という。）において選定するものとする。

- 2 陶磁文化館長（以下「館長」という。）は、調整委員会で購入を選定した資料のうち1件あたりの購入予定価格が400万円以上のものについては、専門委員会の委員から評価調書（別記様式第1号）により意見を求めるものとする。また、資料価値の算定が困難な資料については、購入予定価格の如何にかかわらず、必要に応じて学識経験者等から意見を求め、適正な評価に努めなければならない。
- 3 館長は、前項の規定による評価の結果により購入を取り止めようとする場合又は購入が不可能と判断した場合は、不購入の決定を行うものとする。この場合は、調整委員会へ速やかにその旨を報告するものとする。

(資料の寄贈)

第4条 陶磁文化館に資料を寄贈しようとする者は、資料寄贈申込書（別記様式第2号）により館長に申し込まなければならない。

- 2 館長は、前項の規定により申込みのあった資料について必要に応じて資料専門委員会に諮るなどの措置を講じ、陶磁文化館で所蔵することが適当と認めるものについては、寄贈資料受納調書（別記様式第3号）を作成し、受納を決定するものとする。この場合において、1件あたりの時価見積額が400万円以上の資料については、資料専門委員会の委員等による選定・評価を受けなければならない。
- 3 前項の規定により受納を決定した場合は、寄贈者に対し寄贈資料受納書（別記様式第4号）を送付するものとする。

(資料の寄託及び一時預り等)

第5条 陶磁文化館に資料を寄託（1年以上の期限を定めた寄託に限る。）しようとする者は、資料寄託申込書（別記様式第5号）により館長に申し込まなければならない。

- 2 陶磁文化館が資料の寄託又は出品を所有者に依頼するときは、資料寄託・出品承諾書（別記様式第6号）により所有者の承諾を得なければならない。
- 3 寄託の申し込みのあった資料で館長が認めたもの又は寄託の承諾を得た資料については、寄託資料受入

調書（別記様式第7号）を作成し、受入れを決定するものとする。

- 4 前項の規定により寄託の受入れを決定したときは、資料寄託契約書（別記様式第8号）により契約を締結した後、寄託資料台帳（別記様式第9号）にその旨を登載するものとする。
- 5 展覧会への出品及び研究等のため短期間資料を預かるときは、出品者又は所有者に対し、資料一時預り証（別記様式第10号）を発行するとともに、一時預り資料台帳（別記様式第11号）にその旨を登載するものとする。ただし、企画展のための一時預りについてはこの限りではない。
- 6 埋蔵文化財（出土品）等所有権が確認できない資料について、現にその資料を管理している者から寄託及び出品の申し込みがあった場合又は同人に依頼する場合の手続については、当該管理している者を所有者とみなして前各項の規定を適用する。
- 7 佐賀県出土の埋蔵文化財のうち、国の保有する重要文化財等を1年以上継続して借用する場合は、第4項及び第5項の規定にかかわらず、国保有重要文化財等借用台帳（別記様式第12号）にその旨を登載する。

（資料の整理）

- 第6条 第3条及び第4条の規定により受け入れた資料は、当該資料一件ごとに資料カード（別記様式第13号）を作成し、整理しなければならない。
- 2 前項の資料には、資料ラベル（別記様式第14号）を貼付し、又は紐付けをして整理しなければならない。ただし、貼付し、又は紐付けすることが困難なときは、マーキングを施す等の適当な方法により整理するものとする。
 - 3 前条第4項に規定する寄託資料及び前条第7項の国保有重要文化財等については、前2項の規定を適用する。この場合において、前2項に規定する様式については、すべて赤枠で表示し区別するものとする。

（資料の貸出し）

- 第7条 資料の貸出しは、原則として行わないものとする。ただし、教育、学術及び文化に関する機関、団体等が行う展示会に貸し出す場合で、資料の保管について十分な管理体制がとられると認められるときは、業務に支障がない場合に限り、館長が貸出しを許可することができる。
- 2 前項ただし書きの規定により貸出しを受けようとする者は、資料借用申請書（別記様式第15号）又はこれに準ずる申請書を館長に提出しなければならない。この場合において、貸出しを受けようとする資料が寄託品、一時預り資料又は国保有重要文化財等であるときは、所有者（第5条第6項に規定する場合は、当該資料を管理している者。第8条第2項において同じ。）の承諾書又はその写しを添付しなければならない。
 - 3 館長は、前項の申請により貸出しを許可したときは、資料貸出台帳（別記様式第16号）にその旨を登載し、申請者に対し資料貸出許可書（別記様式第17号）を交付するものとする。また、貸出しに際しては、借受人から借用書を提出させるものとする。
 - 4 資料の貸出しを行なう場合又は返納を受ける場合は、委任出納員並びに担当学芸員が立会し、受渡し又は受取りを行うものとする。この場合において、資料に破損、汚損又は亡失があったときは、館長は借受人に対し必要な指示をするとともに損害の賠償を請求するものとする。

（資料の公開・特別利用）

- 第8条 資料の公開は、博物館及び美術館が主催して展示を行うとき又は前条の規定により貸出すとき以外

には行わない。ただし、学術上の調査研究、文化振興等の目的で資料の閲覧、撮影、フィルム等画像原稿借用、印刷物・電子媒体等での画像使用、複製等（以下「特別利用」という。）を求められたときは、資料の保存及び業務に支障がない場合に限り、館長は条件を付してその利用を許可することができる。

- 2 前項ただし書きの規定により許可を得ようとする者は、資料特別利用許可申請書（別記様式第18号）又はこれに準ずる申請書を館長に提出しなければならない。この場合において、許可を得ようとする資料が寄託品、一時預り資料又は国保有重要文化財等であるときは、所有者の承諾書又はその写しを添付しなければならない。
- 3 館長は、前項の申請により特別利用を許可したときは、資料特別利用許可簿（別記様式第19号）にその旨を登載し、当該申請者に資料特別利用許可書（別記様式第20号）を交付するものとする。
- 4 資料の閲覧、撮影等実物の取扱を伴う特別利用は、担当学芸員の立会いのもとで行い、その指示に従わなければならない。
- 5 印刷物掲載等の画像使用を行った場合は、利用後速やかに成果品を館長に提出しなければならない。電子媒体による出版又は放送等で映像を使用した場合もこれに準ずる。

（補足）

第9条 この規定に定めるもののほか、資料の取扱いについて必要な事項は、別に館長が定める。

附 則

この規程は、昭和61年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年1月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

佐賀県立九州陶磁文化館施設等の使用に関する取扱要領

(趣 旨)

第1条 この要領は、佐賀県立九州陶磁文化館の管理に関する規則（昭和55年佐賀県教育委員会規則第5号）第14条の規定に基づき、佐賀県立九州陶磁文化館の施設及び附属設備（以下「施設等」という。）の使用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(使用の申込み)

第2条 九州陶磁文化館の施設等の使用をしようとする者は、使用日の1月前までに、九州陶磁文化館施設等使用申込書（以下「申込書」という。）（様式第1号）を館長に提出しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、館長が特に認めた場合は、申込期限を経過しても申込書を提出することができる。

(使用の承認等)

第3条 館長は、申込書を提出した者に対し、施設等の使用を認める場合は、九州陶磁文化館使用承認書（様式第2号）を交付するものとする。

2 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、使用を承認しないものとする。

- 一 営利を主たる目的とするとき。
- 二 館内の秩序を乱すおそれがあるとき。
- 三 館の資料及び施設等を損傷し、又は滅失するおそれがあるとき。
- 四 集団的又は常習的に暴力的行為を行うおそれがある組織の利益になると認められるとき。
- 五 その他管理上支障があると認められるとき。

(使用目的の変更等の禁止)

第4条 前条第1項の規定により使用の承認を受けた者（以下「使用者」という。）は、使用目的を変更し、又は使用の権利を譲渡し、若しくは他に転貸することができない。

(使用者の義務)

第5条 使用者は、使用に当たり次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 定員を超えて入場させないこと。
- 二 使用目的以外の物品の販売若しくは陳列又は公告物の掲示若しくは配布をしないこと。
- 三 館の資料及び施設等を毀損しないこと。
- 四 その他館長の指示に従うこと。

(使用承認の取消し等)

第6条 館長は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、使用の承認を取り消し、又は使用の中止を命ずることができる。

- 一 申込書の内容に偽りがあった場合
- 二 その使用が第3条第2項各号のいずれかに該当することが明らかとなった場合
- 三 前二条の規定に違反した場合

2 前項の規定により使用の承認を取り消され、又は使用の中止を命ぜられたことにより使用者に損害を生ずることがあっても、これに対する補償は行わないものとする。

(弁償)

第7条 使用者は、施設等の使用において資料又は施設等を亡失し、破損し、又は汚損したときは、館長の指示に従い、現品又は相当の対価をもって弁償しなければならない。

2 使用者は、使用目的である講演、会議、交流会その他の会合に参加している者が前項に掲げる行為を行った場合についても、館長の指示に従い、現品又は相当の対価をもって弁償しなければならない。

(光熱水費の負担)

第8条 館長は、使用者が使用に際して相当の電気又は水道等の使用を伴う場合は、当該使用の目的及び使用実態等を勘案して、当該使用者に対して相当の光熱水費の負担を求めるものとする。

2 使用者は、前項の規定により、館長から光熱水費の負担を求められた場合は、指示された期限までに納入しなければならない。

(収益等を伴う場合の取扱い)

第9条 施設等を使用する際に、収益を伴う使用及び観覧料等を徴する使用の場合については、この要領にかかわらず佐賀県公有財産規則（昭和40年佐賀県規則第6号）第19条及び第20条の規定に基づき処理するものとする。

附 則

この要領は、平成20年11月1日から施行する。
この要領は、平成22年1月1日から施行する。

様式第1号 九州陶磁文化館施設等使用申込書（略）

様式第2号 九州陶磁文化館使用承認書（略）

事業日誌

- 平成 25. 4. 29 「第 110 回 九州山口陶磁展」(～5.9) (第 1 部美術工芸品・オブジェの部)
5. 17 「新収蔵品展 I 寄贈記念 森正洋 使う器展」(～6.16)
6. 21 「新収蔵品展 II」(～7.15)
6. 26 「第 31 回 新工芸西九州工芸展」(～7.7)
7. 9 「第 22 回 陶千坊展」(～7.15)
7. 20 年報・資料目録(平成 24 年度 No.32) 刊行
7. 21 「第 27 回 現代工芸美術九州会展」(～7.28)
7. 22 平成 25 年度佐賀県立九州陶磁文化館協議会
7. 29 平成 25 年度博物館実習(～8.19)
8. 3 「テーマ展 夏休み やきものバードウォッチング」(～9.1)
9. 7 「第 12 回 伊万里・有田焼伝統工芸士展」(～9.23)
10. 5 「特別展 江戸のモダニズム 古武雄一まぼろしの九州のやきもの一」(～11.24)
12. 14 「新春展 干支 馬の文様」(～1.13)
1. 21 「第 45 回 有田工業高等学校卒業制作展」(～1.26)
1. 28 「第 32 回 西松浦郡小・中学校学童美術展」(～2.2)
2. 4 「第 25 回 九州陶磁器デザイナー協会展」(～2.9)
2. 11 「第 29 回 有田陶交会展」(～2.16)
2. 18 「第 28 回 有田窯業大学校卒業制作展」(～2.23)
2. 22 平成 25 年度 第 1 回・第 2 回 陶芸文化講座(午前・午後)
2. 28 「チームラボと佐賀 巡る! 巡り巡って巡る展」(～3.22)
3. 31 セラミック九州 No.50 刊行

展 示 活 動

1. 常設展

当館の常設展は4つの展示室からなり、九州陶磁の歴史と特色が、順を追って把握できるように構成されています。

順路は第4展示室（固定展示室）から始まり、第5展示室（柴田夫妻コレクション）、第3展示室（九州の古陶磁）を經由して第2展示室（現代の九州陶芸）で終わります。

内容的には九州の陶磁の基礎的学習ができる第4展示室、江戸時代の有田磁器を展示した柴田夫妻コレクションの第5展示室、九州の古陶芸を鑑賞する第3展示室、九州の現代陶芸を鑑賞する第2展示室というそれぞれの特徴があります。

これらの展示は、第2・3展示室は平成25年11月30日に、柴田夫妻コレクションは平成25年12月14日に展示内容を一新しました。

大規模な企画展が開かれる場合は、固定展示室、柴田夫妻コレクション展示室を除いて他の2室は一時的に撤収し、対応しています。

(1) 固定展示室（第4展示室）

この展示室では、やきものについての基礎的な知識をはじめ、中国・朝鮮国の強い影響のもと、日本の、とりわけ九州の陶磁器がどのように発展してきたか、古代・中世から近世・近代までの流れを紹介しています。特に、肥前で生産された磁器については、その生産の技術や国内での流通及び海外との貿易についても説明しています。また、陶器や磁器の具体的な製作工程や装飾技法についても学ぶことができます。

展示内容を詳しく解説した冊子「土と炎」を刊行しています。

なお、蒲原コレクションの輸出伊万里101点は、この展示室で御覧になれます。



第4展示室

会 期 平成25年4月1日～平成26年3月31日
休館日の月曜日と年末の休館日

(12/29～12/31)を除く

展 示 室 第2展示室、第3展示室及び展示ホール
第4展示室（固定展示室）

第5展示室（柴田夫妻コレクション展示室）

入 館 者 56,632人 1日平均178人（319日）



展示ホール

【展示内容】

1. やきもの基礎知識
2. 中国・朝鮮の陶磁の流れ
3. 日本の陶磁の流れ
4. 九州陶磁の展開（タッチパネル）
5. 九州の陶器
6. 磁器の始まり
7. 有田・大川内山の登窯
8. 窯跡復元模型
9. 九州の磁器
10. 古伊万里とオランダ貿易
11. ヨーロッパの古伊万里
12. 蒲原コレクション
13. 近代の九州陶磁
14. 装飾技法
15. 陶片にみる肥前のやきもの
16. 陶器と磁器の製作工程

(2) 柴田夫妻コレクションの展示 (第5展示室)

柴田明彦・祐子夫妻から、平成2年より15年にかけて寄贈していただいた江戸時代の有田磁器 10,311 点の中から 482 件 1,167 点を常設展示しています。

このコレクションの特徴は、有田磁器の歴史の変遷がわかるように各時代の様々な種類の作品が網羅されている点にあります。

この展示室では次のようなコーナーを設けて、有田磁器の様式の特徴、技術の変化、器種別の変遷などを紹介しています。



年代による変遷コーナー

(3) 九州の古陶磁 (第3展示室)

常設展「九州の古陶磁」は、佐賀・長崎・福岡・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の九州各県に分けて、江戸時代のやきものを紹介しています。

唐津焼の陶器に始まる肥前のやきものは、日本初の磁器を産み出した後、その発展にともない初期伊万里、柿右衛門様式、鍋島藩窯様式など様々な陶磁器を産み出してきました。

また、九州各県に点在する茶陶の名窯や日常生活の中で愛された民窯では、地域色豊かな陶器や磁器が焼かれています。

館蔵品を中心にした展示総数は 125 件 164 点で、寄託品 5 件 5 点を含んでいます。

【展示内容】

佐賀

1. 唐津系陶器
2. 古伊万里・初期伊万里様式
3. 古伊万里・正保様式
4. 古伊万里・延宝・柿右衛門様式
5. 古伊万里・元禄様式
6. 古伊万里・宝暦・文政様式
7. 古伊万里・近代
8. 鍋島藩窯

九州

9. 長崎の陶磁器
10. 福岡の陶磁器
11. 熊本の陶磁器
12. 大分・宮崎の陶磁器
13. 鹿児島の陶磁器
14. 沖縄の陶磁器
15. 面白いやきもの

会期 平成 25 年 12 月～平成 26 年 12 月

●コーナー

- 1 年代による変遷
- 2 名前のつけ方
- 3 磁器の種類
- 4 江戸時代の食膳
- 5 器を現代に生かす
- 6 植物の文様と形
- 7 動物の文様と形
- 8 器物の文様と形
- 9 出土陶片との比較



器を現代に生かすコーナー

会期 平成 25 年 12 月～平成 26 年 9 月

(会期中企画展等のため一時的に撤収される場合がある)

(構成)

佐賀 【79 件 102 点】

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 唐津系陶器 | 17 件 17 点 |
| 2. 古伊万里・初期伊万里様式 | 7 件 8 点 |
| 3. 古伊万里・正保様式 | 12 件 13 点 |
| 4. 古伊万里・延宝・柿右衛門様式 | 6 件 8 点 |
| 5. 古伊万里・元禄様式 | 8 件 9 点 |
| 6. 古伊万里・宝暦・文政様式 | 6 件 6 点 |
| 7. 古伊万里・近代 | 1 件 15 点 |
| 8. 鍋島藩窯 | 22 件 26 点 |

九州 【46 件 62 点】

- | | |
|---------------|-----------|
| 9. 長崎の陶磁器 | 6 件 10 点 |
| 10. 福岡の陶磁器 | 7 件 7 点 |
| 11. 熊本の陶磁器 | 3 件 6 点 |
| 12. 大分・宮崎の陶磁器 | 3 件 3 点 |
| 13. 鹿児島の陶磁器 | 8 件 14 点 |
| 14. 沖縄の陶磁器 | 9 件 9 点 |
| 15. 面白いやきもの | 10 件 13 点 |

【九州の古陶磁 展示目録】

No.	資料名	点数	収蔵番号	生産地	年代
【唐津系陶器】					
1	灰釉彫文茶碗（銘「玄海」）	1	寄託	肥前・岸岳飯洞甕窯 佐賀県重要文化財	1580～90年代
2	鉄絵蒲公英文鉢（絵唐津）	1	寄託	肥前	1590～1610年代
3	鉄絵柳文向付（絵唐津）	1	101	肥前	1590～1610年代
4	灰釉茶碗	1	12275	肥前	1590～1610年代
5	鉄釉小壺	1	5886	肥前	1630～40年代
6	白釉茶碗	1	797	肥前	17世紀
7	象嵌花文盃台（三島手）	1	800	肥前	17世紀
8	象嵌双鶴文瓶（三島手）	1	304	肥前	1610～40年代
9	緑釉牡丹唐草文耳付壺	1	6820	肥前	1650～80年代
10	打刷毛目文広口花瓶	1	411	肥前	17世紀末～18世紀前半
11	緑釉大皿	1	7397	肥前	17世紀前半
12	鉄緑釉流掛大鉢（二彩手）	1	8491	肥前	1660～1700年代
13	象嵌雲鶴文大皿（献上唐津）	1	6838	肥前	18世紀末～1860年代
14	呉須絵雲龍文耳付広口瓶（献上唐津）	1	6841	肥前	19世紀
15	呉須絵芦蟹文盃（献上唐津）	1	6844	肥前	18世紀末～19世紀中葉
16	呉須絵詩句文瓢形瓶（献上唐津）	1	6832	肥前	17世紀末～18世紀
17	灰釉瓢形瓶（献上唐津）	1	6833	肥前	18世紀
【古伊万里・初期伊万里様式】					
18	染付牛人物文水指	1	2672	肥前・有田窯	1610～30年代
19	錆釉染付独楽文瓢形瓶	1	6625	肥前・有田窯	1630～40年代
20	染付楼閣山水文大皿	1	135	肥前・有田窯 山辺田窯	1630～40年代
21	染付蓮弁文小坏	2	5668	肥前・有田窯	1650年代
22	錆釉陽刻瓢箪文輪花小皿	1	134	肥前・有田窯	1630～40年代
23	青磁小香炉	1	5901	中国・龍泉窯	明 14世紀後半～15世紀
24	青磁小香炉	1	73	肥前・有田窯 百間窯	1630～40年代
【古伊万里・正保様式】					
25	色絵唐人観月文皿	1	4846	肥前・有田窯	1640～50年代
26	色絵山水菊唐草文大皿	1	3262	肥前・有田窯	1650年代頃
27	色絵樹木文大皿（青手）	1	3531	肥前・有田窯	1650～60年代
28	白磁線彫牡丹文合子	1	4580	肥前・有田窯	1660～80年代
29	染付宝草花文水注	1	2677	肥前・有田窯	1660～80年代
30	染付寿字鳳凰文皿	1	296	中国・景德鎮窯	17世紀前半
31	染付寿字鳳凰文皿	1	105	肥前・有田窯 南川原山	1655～70年代
32	染付芦雁文大皿	1	6697	肥前・有田窯	1660～70年代
33	染付芙蓉手宝文輪花皿	1	2680	中国・景德鎮窯	17世紀後半～18世紀初頭
34	色絵芙蓉手草花文輪花皿	1	384	肥前・有田窯	1660～70年代
35	色絵芙蓉手鳳凰文鉢	1	146	肥前・有田窯	1660～70年代
36	色絵牡丹文碗	2	2232	肥前・有田窯	1660～90年代



1 灰釉彫文茶碗（銘「玄海」） 肥前・岸岳飯洞甕窯
佐賀県重要文化財 1580～90年代



32 染付芦雁文大皿 肥前・有田窯
1660～70年代

No.	資料名	点数	収蔵番号	生産地	年代
【古伊万里・延宝・柿右衛門様式】					
37	染付唐花文菊花形皿	3	547	肥前・有田窯 南川原山	1670～90年代
38	染付楼閣山水文瓢形瓶	1	307	肥前・有田窯	1670～1700年代
39	色絵美人文陶枕	1	6051	肥前・有田窯	1670～1700年代
40	色絵花鳥文皿	1	366	肥前・有田窯 南川原山	1670～90年代
41	色絵三果文皿	1	30	肥前・有田窯 南川原山	1670～90年代
42	色絵花鳥文鉢（柿右衛門様式）	1	6766	肥前・有田窯	1670～90年代
【古伊万里・元禄様式】					
43	色絵龍文大皿	1	1984	肥前・有田窯	1690～1730年代
44	色絵花籠文八角大壺	1	5219	肥前・有田窯	1700～30年代
45	色絵牡丹梅文角瓶	1	5992	肥前・有田窯	1700～30年代
46	色絵七福神図酒瓶（共蓋付）	2	82	肥前・有田窯	1730～60年代
47	染付阿蘭陀風景文輪花皿	1	5212	肥前・有田窯	1690～1730年代
48	染付阿蘭陀風景文輪花皿	1	2679	中国・景德鎮窯	18世紀前半
49	色絵牡丹唐草文蓋付鉢	1	5656	肥前・有田窯	元禄八年（1695）
50	色絵唐花松文深鉢	1	782	肥前・有田窯	1700～40年代
【古伊万里・宝暦・文政様式】					
51	染付竹文角付角形香炉	1	341	肥前・有田窯	1740～70年代
52	染付菊紋竹垣文小皿	1	6768	肥前・有田窯 辻窯	1740～70年代
53	染付菊紋竹垣藤文小皿	1	6774	肥前・有田窯 辻窯	1750～80年代
54	染付麻葉菊花文碗	1	410	肥前・有田窯	1780～1820年代
55	色絵唐花文蓋物	1	6019	肥前・有田窯	1810～60年代
56	染付日本地図大皿	1	299	肥前・有田窯	1830～40年代
【古伊万里・近代】					
57	色絵果実文洋食器セット	15	7646～7660	肥前・有田・肥礫山信甫	1840～70年代
【鍋島藩窯】					
58	染付松宝珠文大皿	1	6199	肥前・鍋島藩窯	1750～70年代
59	色絵唐花文変形皿	1	825	肥前・有田 岩谷川内窯	1650～60年代
60	色絵唐花文変形皿	1	6034	肥前・有田 岩谷川内窯	1650～60年代
61	色絵薄瑠璃唐花文皿	1	2316	肥前・有田 岩谷川内窯	1650年代頃
62	色絵菊唐草文皿	1	5	肥前・鍋島藩窯	1670～90年代
63	色絵薄瑠璃唐花文菱形皿	1	693	肥前・鍋島藩窯	1660～80年代
64	染付雲文猪口	1	寄託	肥前・鍋島藩窯	1650～70年代
65	色絵花文猪口	1	寄託	肥前・鍋島藩窯	1650～70年代
66	色絵鸚鵡文猪口	1	寄託	肥前・鍋島藩窯	1650～70年代
67	色絵花束文皿	5	5962	肥前・鍋島藩窯	1710～40年代
68	染付松文大皿	1	6193	肥前・鍋島藩窯	1700～40年代
69	染付菊唐花文皿	1	163	肥前・鍋島藩窯	1690～1730年代
70	染付唐花文皿	1	102	肥前・鍋島藩窯	1700～40年代



40 色絵花鳥文皿 肥前・有田窯 南川原山
1670～90年代



50 色絵唐花松文深鉢 肥前・有田窯
1700～40年代

71	青磁花唐草文冠形香炉	1	816	肥前・鍋島藩窯	1690～1730年代
72	染付楼閣山水文長角皿	1	6980	肥前・鍋島藩窯	1820～60年代
73	染付菊花文角小皿	1	6985	肥前・鍋島藩窯	19世紀前半
74	染付桜花文角小皿	1	6984	肥前・鍋島藩窯	1820～60年代
75	染付白梅文大皿	1	5601	肥前・鍋島藩窯	1790～1840年代
76	染付萩文皿	1	704	肥前・鍋島藩窯	1770～90年代
77	染付金魚文舟形皿	1	5602	肥前・鍋島藩窯	1790～1820年代
78	染付牡丹文大皿	1	790	肥前・鍋島藩窯	1790～1830年代
79	染付山水文角皿	1	708	肥前・鍋島藩窯	1820～60年代
【長崎の陶磁器】					
80	青磁篋彫草文大鉢	1	3270	肥前・波佐見窯 木場山窯	1670～1700年代
81	白磁陽刻青海波文双耳付花生	1	4849	肥前・三川内窯	19世紀前半
82	染付桜折枝文燭台	1	12271	肥前・三川内窯	18世紀前半～中葉
83	色絵鷹猿文皿	1	2318	肥前・秋の浦窯	19世紀後半
84	染付水草文三足付鉢	1	888	肥前・亀山窯	19世紀前半
85	刷毛目菱文向付	5	168	肥前・現川窯	1690～1740年代 元禄九年（1696）箱書
【福岡の陶磁器】					
86	鉄釉藁灰流し茶入	1	5978	筑前・高取窯	17世紀前半
87	黒釉藁灰釉掛分茶碗	1	12118	筑前・高取窯	17世紀前半
88	三彩茶碗	1	16	豊前・上野窯 上野皿山本窯	18世紀
89	鉄釉水指	1	5853	筑前・高取焼	17世紀後半～18世紀
90	鉄釉手付鉢	1	12284	筑前・高取窯	17世紀前半
91	染付楼閣山水文手焙	1	4851	筑前・須恵窯	19世紀前半
92	白磁型紙白絵梅樹文鉢	1	2238	筑後・朝妻窯	18世紀前半
【熊本の陶磁器】					
93	刷毛目文長皿	3	7183	肥後・八代窯	19世紀か
94	象嵌文透彫大燭台	2	653	肥後・八代窯	18～19世紀
95	染付椿鳥文大皿	1	2271	肥後・網田窯	18世紀末～19世紀前半
【大分・宮崎の陶磁器】					
96	刷毛目飴釉蓋付壺	1	723	豊後・小鹿田窯	19～20世紀
97	刷毛目皿	1	12179	大分・小鹿田窯	20世紀
98	呉須絵龍文耳付仏花器	1	726	日向・蓬來山窯（丸山窯）	19世紀中葉
【鹿児島島の陶磁器】					
99	灰釉双耳水指	1	12318	薩摩	17世紀
100	褐釉碗	1	12041	薩摩	17世紀
101	黒釉龍文甕	1	543	薩摩・苗代川窯	17世紀後半～18世紀
102	蛇蠍釉小碗	5	8557	薩摩	19世紀
103	小鮫肌釉瓶	2	63	薩摩・龍門司窯	18世紀後半～19世紀
104	色絵金彩菊牡丹文香炉	1	50	薩摩・豎野窯系	19世紀末
105	銹釉染付燭台	1	582	薩摩・平佐窯	安政四年（1857）
106	色絵金彩鳳凰文瓶	2	412	薩摩 磯・仙巖窯	19世紀末



58 染付松宝珠文大皿 肥前・鍋島藩窯
1750～70年代



82 染付桜折枝文燭台 肥前・三川内窯
18世紀前半～中葉

No.	資料名	点数	収蔵番号	生産地	年代
【沖縄の陶磁器】					
107	褐釉窯変酒注	1	491	琉球・壺屋窯	18世紀後半
108	褐釉流掛瓶	1	5208	琉球・壺屋窯	18世紀後半
109	呉須絵線条文対瓶（彫絵藍差）	1	498	琉球・壺屋窯	18世紀後半
110	飛鉋文碗	1	483	琉球・壺屋窯	19世紀中葉
111	黒釉嘉瓶	1	12184	琉球・壺屋窯	19世紀
112	灰釉鉄絵線条文皿	1	4874	琉球・壺屋窯	17世紀後半～18世紀前半
113	褐釉瓢形瓶	1	4865	琉球・八重山窯	18世紀中葉～後半
114	宮古式土器壺	1	531	琉球・宮古島	13～16世紀
115	灰釉蛙形書鎮	1	6233	福岡か	19世紀か
【面白いやきもの】					
116	銹瑠璃釉菊蝶簪形熨押	1	792	肥前・三川内窯	19世紀前半
117	粉彩栗形香合	1	6293	中国・景德鎮窯	清 18～19世紀中葉
118	染付瑠璃釉銹釉瓢箪駒文小盃	1	7131	肥前・三川内窯	19世紀
119	染付蓮文蓮形盃	1	7204	関西	19世紀
120	色絵龍形筆架	1	6169	肥前・有田窯 江副琴岳絵付	19世紀後半
121	象嵌青海波魚文陶硯	1	855	肥後・八代窯	17世紀～18世紀前半
122	青磁彫唐草文暖鉢	1	6270	中国・龍泉窯	14世紀
123	土型	2	596	肥前系	19世紀～20世紀
124	褐釉濾過器	1	7825	イギリス・ロイヤル・ドルトン社	19世紀後半
125	銅版染付唐草幾何文角形タイル	3	643	肥前・有田窯 松尾製	明治34年頃 (c. 1901)



88 三彩茶碗
豊前・上野窯 上野皿山本窯 18世紀



124 褐釉濾過器 イギリス・ロイヤル・ドルトン社
19世紀後半

(4) 現代の九州陶芸 (第2展示室)

歴史的に多様な展開がみられる九州の陶芸は、それぞれ茶陶として、また商品性の高い美術工芸品として、あるいは民陶として今日に受け継がれています。

こうしたなかで、創作的な活動を続けている陶芸作家を選び、その代表作を一堂に紹介したのが第2展示室の「現代の九州陶芸」です。

現在、九州6県の114名による作品を展示しています。県別では佐賀県が最も多く、次いで福岡県、鹿児島県の順となります。

展示室では、日本工芸会に所属している作家作品、さらに日展系・民陶系などの作家作品を御覧になれます。また水指・茶入など茶道具関連の作品も鑑賞できます。なお、芸術院会員や重要無形文化財保持者の作品は展示ホール(有田焼からくりオルゴール時計横)に展示しています。また、寄贈いただいた青木龍山作品を毎月5~6点ずつ展示ホールに展示しています。

伝統的な陶芸技術を駆使した作品から、従来の陶芸技術とはおもむきの異なる前衛的な作品までが展示され、陶芸文化の多様性が示されています。

会期 平成25年12月~平成26年9月

(会期中企画展等のため一時的に撤収される場合がある)

<所属別構成>

日本工芸会	65名
日展系	36名
民陶系	3名
無所属	10名
計	114名

<県別構成>

佐賀県	67名
福岡県	26名
鹿児島県	10名
長崎県	6名
熊本県	4名
大分県	1名
計	114名

常設展 **現代の九州陶芸**

展示目録 2013.12~2014.9

展示総数114件 125点

No.	氏名	県名	作品名	製作年	経歴	所属
1	青木龍山	佐賀	響	平成4年(1992)	第31回日本現代工芸美術展出品作品	日展
2	井上萬二	佐賀	白磁緑釉椿彫文面取壺	平成10年(1998)	館蔵	日本工芸会
3	14代 酒井田柿右衛門	佐賀	濁手撫子文大皿	平成10年(1998)	館蔵	日本工芸会
4	中島宏	佐賀	青瓷線彫文壺	平成21年(2009)		日本工芸会
5	中里逢庵	佐賀	叩き面取瓶	平成4年(1992)	第24回日展出品	日展
6	富村繁雄	佐賀	回生	平成22年(2010)		日展
7	寺崎康子	佐賀	飛翔	平成23年(2011)		日展
8	青木清高	佐賀	青への想い	平成18年(2006)	第38回日展出品作	日展
9	石橋國男	佐賀	膨兆	平成15年(2003)	第25回日本新工芸展	日展
10	今村博	佐賀	流双	平成24(2012)	第44回日展出品作	日展
11	浦郷好文	佐賀	面取り花器「蒼風」	平成24年(2012)	第29回西日本陶芸美術展	日展
12	照井一玄	佐賀	紅条文壺抱	平成20年(2008)		日展
13	熊本千治	佐賀	蒼刻彩器「悠」	平成21年(2009)	第19回日工会展	日展
14	白武初芳	佐賀	天空の峰	平成2年(2013)	第35回日本新工芸展出品作	日展
15	田中忍	佐賀	白い夏-VIII	平成22年(2010)	第107回九州山口陶磁展 文部科学大臣賞 館蔵	日展
16	辻聡彦	佐賀	「波立つ」	平成14年(2002)	第99回九州山口陶磁展 文部科学大臣奨励賞 館蔵	日展
17	大宅利秋	佐賀	流母	平成23年(2011)	第43回日展	日展
18	中島康夫	佐賀	2010-鳥	平成22年(2010)	第32回日本新工芸展	日展
19	2代 松本佩山	佐賀	釉彩盛上「晩秋」 文飾皿	平成15年~16年 (2003~2004)		無所属
20	嶋田敏生	佐賀	風紋	昭和59年(1984)	第81回九州山口陶磁展 文部大臣奨励賞 館蔵	無所属
21	松尾重利	佐賀	方流	平成24年(2012)		日展
22	福島清海	佐賀	連山	平成24年(2012)	第33回日本新工芸展出品作	日展
23	藤井剛	佐賀	雪壁	平成7年(1995)	第34回日本現代工芸展	日展
24	馬場九洲夫	佐賀	湖畔	平成21年(2009)	第41回日展	日展
25	松尾博之	佐賀	氷雪の世界	平成25年(2013)	第27回現代工芸九州会展最高賞受賞作 (青木龍山賞)	日展

No.	氏名	県名	作品名	製作年	経歴	所属
26	前田 泰昭	佐賀	2008-曙光	平成20年(2008)	第40回 日展	日展
27	松本 幹治郎	佐賀	春紋	平成22年(2010)	第42回 日展	日展
28	宮尾 正隆	佐賀	朝霧	平成25年(2013)	第52回日本現代工芸展出品作	日展
29	岩田 義實	佐賀	思考スル形	平成24年(2012)		無所属
30	藤ノ木 土平	佐賀	青唐津おもちゃ箱	平成23年(2011)		無所属
31	大橋 裕	佐賀	絵唐津梅花文重筥	平成22年(2010)		無所属
32	斉藤 勉作	大分	黝木の葉蓋付壺	平成23年(2011)		日本工芸会
33	貞松 善次	佐賀	陽炎	平成23年(2011)		日展
34	高木 清次	長崎	青白磁猪香炉	平成23年(2011)		日展
36	井上 俊一	福岡	錫白銀彩面取壺	昭和63年(1988)	館蔵	無所属
37	世良 彰彦	福岡	雲の記憶	平成22年(2010)	京都美術ビエンナーレ出品作	日展
38	中森 久明	福岡	氷壁	平成19年(2007)	第46回 日本現代工芸美術展	日展
38	雷山 陶秀	福岡	砦	平成23年(2011)	第66回 福岡県美術展	日展
39	高鶴 元	福岡	鼻の城	平成23年(2011)		無所属
40	梶原 藤徳	福岡	窯変花器	平成23年(2011)		民陶
41	太田 孝宏	福岡	飴釉打掛壺	平成24年(2012)		民陶
42	井上 泰秋	熊本	萱灰蒔釉掛大皿	平成23年(2011)		民陶
43	尾之下 彰三	鹿児島	花器	平成23年(2011)		日展
44	有山 禮石	鹿児島	春	平成21年(2009)	第37回 鹿児島陶芸招待出品	日展
45	有山 長佑	鹿児島	足付盤「春雪」	平成23年(2011)	第33回 日本新工芸展	日展
46	厚東 孝治	鹿児島	弥生一秋稟	平成23年(2011)	第43回 日展	日展
47	久保 満義	鹿児島	羽化'11・I	平成23年(2011)	第50回記念現代工芸美術展	日展
48	高田 さとこ	鹿児島	暉映-10・A	平成22年(2010)	第49回 日本現代工芸美術展	日展
49	井上 康徳	佐賀	白磁青釉刻文三角形花器	平成22年(2010)	第45回 西部伝統工芸展	日本工芸会
50	14代今泉今右衛門	佐賀	色絵薄墨墨はじき雪文鉢	平成24年(2012)	館蔵	日本工芸会
51	江口 勝美	佐賀	和紙染刳抜更紗軸筥	平成9年(1997)	館蔵	日本工芸会
52	江口 康成	佐賀	和紙染魚文陶箱	平成17年(2005)	第55回 佐賀県展	日本工芸会
53	勝田 文博	佐賀	和紙染山吹文花器	平成25年(2013)	第48回西部伝統工芸展出品作	日本工芸会
54	小笠原 長春	佐賀	鍋島青磁花紋鉢	平成13年(2001)		日本工芸会
55	梶原 茂正	佐賀	月白壺	平成24年(2012)		日本工芸会
56	奥川 俊右衛門	佐賀	白磁花瓶	平成25年(2013)		日本工芸会
57	小野 隆治	佐賀	釉裏紅釉象嵌鉢	平成22年(2010)	第57回 日本伝統工芸展	日本工芸会
58	金子 認	佐賀	叩き朝鮮唐津壺	平成25年(2013)		日本工芸会
59	河口 純一	佐賀	釉裏彩華文花器	平成17年(2005)	第52回 伝統工芸展	日本工芸会
60	熊本 義泰	佐賀	青磁麦文鉢	平成22年(2010)	第46回 西部伝統工芸展	日本工芸会
61	坂本 義弘	佐賀	染華銀彩鉢	平成15年(2003)	佐賀県陶芸協会展	日本工芸会
62	庄村 健	佐賀	藍染花器	平成8年(1996)	第93回 九州山口陶磁展 文部大臣奨励賞 館蔵	日本工芸会
63	中尾 英純	佐賀	和紙染菱文壺	平成24年(2012)		日本工芸会
64	中尾 恭純	佐賀	四方禪文彩色象嵌面取花生	平成20年(2008)	第105回 九州山口陶磁展 文部科学大臣奨励賞 館蔵	日本工芸会
65	中尾 龍純	佐賀	染付色小文壺	平成22年(2010)		日本工芸会
66	西山 宗元	佐賀	絞り釉銀彩線文鉢	平成20年(2008)	第55回日本伝統工芸展出品作	日本工芸会
67	西山 正	佐賀	青白磁千段深鉢	平成7年(1995)	第92回 九州山口陶磁展 文部大臣奨励賞 館蔵	日本工芸会
68	納所 正一	佐賀	白磁花入	平成17年(2005)		日本工芸会

No.	氏名	県名	作品名	製作年	経歴	所属
69	松尾 潤	佐賀	塩窯彩花器	平成21年(2009)		日本工芸会
70	野中 拓	佐賀	天目花紋深鉢	平成22年(2010)		日本工芸会
71	宮崎 祐輔	佐賀	銀彩紅錦長皿	平成22年(2010)	第57回 日本伝統工芸展	日本工芸会
72	高森 誠司	佐賀	釉彩線文鉢	平成22年(2010)	第57回 日本伝統工芸展	日本工芸会
73	山口 文彦	佐賀	青白磁線文鉢	平成16年(2004)	第51回 日本伝統工芸展	日本工芸会
74	矢鋪 與左衛門	佐賀	青白磁深鉢	平成21年(2009)		日本工芸会
75	中村 清吾	佐賀	白磁壺	平成22年(2010)		日本工芸会
76	松尾 勝也	佐賀	艶釉彩深鉢「想」	平成22年(2010)		日本工芸会
77	山口 幹彦	佐賀	白磁斜線文壺	平成13年(2001)	第49回 日本伝統工芸展	日本工芸会
78	川崎 精一	佐賀	青白磁彫菖蒲紋深鉢	平成23年(2011)		日本工芸会
79	百田 暁生	佐賀	-line- 蓋壺	平成25年(2013)		日本工芸会
80	14代 中里太郎右衛門	佐賀	唐津白地黒搔落し偏壺	平成23年(2011)		無所属
81	石原 祥嗣	福岡	黒地金彩直弧文陶箱	平成21年(2009)	第106回 九州山口陶磁展 文部科学大臣賞 館蔵	日本工芸会
82	甲斐 一	福岡	刷毛目搔落草文鉢	平成24年(2012)	第47回 西部伝統工芸展 出品作	日本工芸会
83	熊谷 善光	福岡	白線文長壺	平成24年(2012)		日本工芸会
84	大村 就康	福岡	泥彩偏壺	平成24年(2012)		日本工芸会
85	佐々木 厚	福岡	象嵌花器	平成24年(2012)		日本工芸会
86	添田 和信	福岡	五稜壺	平成25(2013)		日本工芸会
87	高鶴 淳一	福岡	鉄釉鉢	平成25(2013)		日本工芸会
88	太田 秀隆	福岡	黍灰釉飛鉋掛分組鉢	平成24年(2012)	第59回 日本伝統工芸展 出品作 姉妹賞	日本工芸会
89	吉田 浩通	福岡	分銅文組盤	平成24年(2013)	第69回 福岡県美術展 会員展 出品作	日本工芸会
90	熊谷 光修	福岡	鉄釉大鉢	平成21年(2009)	福岡県伝統の工芸品展 入賞作	日本工芸会
91	江口 秀山	長崎	長崎三彩 壺	昭和62年(1987)		日本工芸会
92	立井 清人	長崎	埋め込み大鉢	平成18年(2006)	第104回 九州山口陶磁展 文部科学大臣賞 館蔵	日本工芸会
93	長野 恵之輔	長崎	線彫呉須流花器 「向日葵」	平成25年(2013)	平成25年九州山口陶磁展 (朝日新聞社賞)	日本工芸会
94	山口 春利	長崎	白磁輪花壺	平成12年(2000)	第47回 日本伝統工芸展 入選作	日本工芸会
95	犬童 又郎	熊本	天目線文壺	平成20年(2008)		日本工芸会
96	久保田 烈工	熊本	青白磁流線文扁壺	平成2年(1990)	第87回 九州山口陶磁展 文部大臣奨励賞 館蔵	日本工芸会
97	福吉 浩一	熊本	炭化線象嵌面取花器	平成21年(2009)	第56回 日本伝統工芸展	日本工芸会
98	荒木 幹二郎	鹿児島	苗代川葉文壺	平成21年(2009)	第44回 西部伝統工芸展	日本工芸会



29 岩田 義實(佐賀) 思考スル形
平成24年(2012)



34 高木 清次(長崎) 青白磁猪香炉
平成23年(2011)

No.	氏名	県名	作品名	製作年	経歴	所属
99	永吉 一	鹿児島	花文角鉢	平成22年(2010)	第65回 南日本美術展	日本工芸会
100	竹之内 彬裕	鹿児島	抜絵ほおずき文金銀彩蓋物	平成22年(2010)		日本工芸会
101	尾前 喜八郎	鹿児島	彩色壺	平成23年(2011)	第58回 鹿児島県美展出品作	日本工芸会
102	福田 忠夫	佐賀	炭化窯変壺	平成22年(2010)		無所属
103	徳澤 守俊	福岡	焼締朝鮮唐津花器	平成22年(2010)	日本伝統工芸展陶芸部会展	日本工芸会
104	渡 久兵衛	福岡	枇杷釉茶碗	平成23年(2011)		日本工芸会
105	溝上 藻風	佐賀	唐津粉引茶盤	平成23年(2011)		日展
106	熊谷 保興	福岡	上野茶入	平成24年(2012)		日本工芸会
107	13代 高取 八山	福岡	高取耳付茶入	平成23年(2011)		無所属
108	中里 重利	佐賀	唐津井戸茶盤	平成16年(2004)		日展
109	熊谷 光甫	福岡	鉄釉茄子茶入	平成22年(2010)	第57回日本伝統工芸展出品作	日本工芸会
110	熊谷 無造	福岡	上野大海茶入	平成23年(2011)		日本工芸会
111	鶴我 淳二朗	福岡	木の葉天目茶碗	平成22年(2010)		日本工芸会
112	亀井 又生庵	福岡	高取千段巻水指	平成24年(2012)	福岡県美術展正会員展	日本工芸会
113	横石 臥牛	長崎	水指「天翔鷺草」	平成25年(2013)	米寿記念作品	日本工芸会
114	亀井 楽山	福岡	高取七宝耳付千段巻水指	平成23年(2011)		日本工芸会



61 坂本 義弘 (佐賀) 染華銀彩鉢
平成15年(2003) 第57回 日本伝統工芸展



93 長野 惠之輔 (長崎)
線彫呉須流花器「向日葵」平成25年(2013)
第110回九州山口陶磁展 (朝日新聞社賞)

2. 企画展・テーマ展など

(1) 第110回 九州山口陶磁展 (第1部美術工芸品・オブジェの部)

趣 旨

我が国における磁器発祥の地、佐賀県有田町に日本全国の陶磁器製品を集め、一般の鑑賞に供し、技術の交流、品質の向上、デザインの改善を図り伝統工芸の継承と産業的発展を期して、この陶磁展を開催します。

<開催要項より>

歴史と伝統、さらには多くの方々に支えられてきた九州山口陶磁展が、今年で第110回を迎えた。これまで多くの優れた作家を輩出してきた重みを、応募された作品を見て実感した。

第110回展は、117人から124点の応募があり、80点が入選した。応募数では、昨年より36人、作品では39点減り、入選作品もそれに比例するように12点減った。しかし、入選率を比べるとやや高くなった。応募作品が減った要因として、今回は応募の範囲を九州山口地区に限らず、全国規模にしたことで、作品のレベルが上がるだろうと予測して、応募を控えてしまったのではと思われる。

入選作品を観てみると、あらためてそのレベルの高さに驚かされた。そして、会派に関係なく同じ土俵の上で作品を観ることができ、また作品の傾向も実に広く、器からオブジェまであり、この公募展の意義が見えてきた。地域的な傾向があるかもしれないが、オブジェ系の作品数が少ないように感じた。しかし、作品のレベルは劣ってはならず、どちらかといえば一定の水準以上のように思われた。また、器の作品も、伝統的な姿を見せるものから、器の姿を借りた造形とでもいえるような、ある意味、時代をとらえた作品といえるものまであり、この公募展の凄みを感じた。

文部科学大臣賞を受賞した中村清吾の《白磁鉢》は、素材の特性と自身が持つテクニックとのせめぎ合いが生んだ意欲的な作品である。曖昧な中でのイメージ化ではなく、器と造形、そして独特の質感とが相まって、確固とした存在として見せていた。佐賀県知事賞を受賞した畑石修嗣の《Rin》と、有田町長賞を受賞した森山寛二郎の《切り継ぎ一層一》は、周到なフォルムの構築が目を惹いた。器やオブジェといった狭い考え方ではなく、あらためて陶造形の可能性を強く感じさせた。これら上位3点は、いずれも若手と呼ばれる作家が生み出したものである。そこにはしっかりと作品に対する考えとともに、新しい何かを掴み取ろうとする意欲と勇気を強く映し出していた。こういった作品が刺激を与え、歴史ある公募展のさらなる発展を担っていくものと期待したい。

<審査長 唐澤 昌宏氏 審査評より抜粋>



第一席文部科学大臣賞 「白磁鉢」
中村 清吾

会 期 平成 25 年 4 月 29 日～5 月 9 日(11 日間)
会 場 第 1・第 2 展示室
主 催 佐賀県・有田町・有田商工会議所
出品概要 入選 80 点 (うち入賞 14 点)
招待出品 6 点 (第 1 部)
展示解説 4 月 29 日 (月) 14 : 00～15 : 00
学芸課係長 藤原 友子
展示目録 A4 版 23 ページ カラー図版 33 点
入 館 者 7,830 人 1 日平均 712 人

審 査 員 (第 1 部)
唐澤 昌宏 東京国立近代美術館工芸課長
神 農 巖 日本工芸会理事
叶 道夫 日展会員
日本新工芸家連盟理事
京都市立芸術大学教授

第1部美術工芸品・オブジェの部 〈出品概要〉

() は昨年度分

県 名	出品者数	出品点数	入選点数	入賞点数
山口県	12(17)	14(20)	11(7)	2(3)
福岡県	16(23)	17(25)	11(17)	3(2)
佐賀県	71(83)	75(87)	44(48)	5(5)
長崎県	5(10)	5(10)	4(6)	2(1)
熊本県	5(7)	5(8)	5(5)	0(2)
大分県	1(1)	1(1)	1(1)	0(0)
宮崎県	1(2)	1(2)	0(2)	0(0)
鹿児島県	4(6)	4(6)	3(3)	2(1)
沖縄県	1(4)	1(4)	0(3)	0(0)
全国	1(—)	1(—)	1(0)	0(0)
計	117(153)	124(163)	80(92)	14(14)



展示風景



表彰式

<入賞者名簿>

賞	入賞作品名	氏名	住所
文部科学大臣賞	白磁鉢	中村 清吾	佐賀県西松浦郡有田町
2位・佐賀県知事賞	Rin	畑石 修嗣	佐賀県伊万里
3位・有田町長賞	切り継ぎ一層一	森山 寛二郎	福岡県朝倉郡東峰村
佐賀県陶芸協会賞	萩掛分窯変花器	木村 幸子	山口県下松市
朝日新聞社賞	線彫向日葵	長野 恵之輔	長崎県東彼杵郡波佐見町
熊本放送賞	鉄黒重釉窯変鉢	熊谷 智久	福岡県朝倉郡東峰村
佐賀県商工会議所連合会賞	月下美人陰刻鉢	川崎 精一	佐賀県西松浦郡有田町
佐賀新聞社賞	光の方へーVII	田中 忍	佐賀県嬉野市
サガテレビ賞	練上焼締八角組鉢「波文」	草場 勇次	佐賀県西松浦郡有田町
陶業時報社賞	象嵌草花文大鉢	立井 清人	長崎県東彼杵郡波佐見町
西日本新聞社賞	相聞歌	中村 伸子	福岡県粕屋郡宇美町
日刊工業新聞社賞	綴る	神田 樹里	鹿児島県出水市
日本経済新聞社賞	擁	神田 和弘	鹿児島県出水市
読売新聞社賞	萩粉引呉須波線刻文壺	上田 敦之	山口県防府市

<招待作品> (審査員・重要無形文化財)

作品名	出品者名	住所
堆磁線文壺	神農巖	滋賀県大津市
旺	叶道夫	京都府京都市
白磁渦文壺	井上萬二	佐賀県有田町
色絵薄墨墨はじき桔梗文鉢	今右衛門窯代表 今泉 今右衛門	佐賀県有田町
濁手撫子文額皿	酒井田 柿右衛門	佐賀県有田町
青瓷彫文壺	中島 宏	佐賀県武雄市

(2) 新収蔵品展Ⅰ 寄贈記念 「森正洋 使う器展」

趣 旨

戦後、日本の陶磁器デザインに多大な影響をもたらした森正洋。第1回グッドデザイン賞を受賞した代表作「G型しょうゆさし」をはじめ、その作品の多くが半世紀を越えてもなお、人々に愛され続けています。

展覧会では、平成23年度に寄贈された作品を一挙に公開。実際に作品を手にとって作品の機能を体験したり、器を自由に選んでテーブルコーディネートをお楽しみいただけるコーナーを設けます。また、当館の所蔵する古陶磁との比較を試みるなどして、森デザイン作品の魅力を発信します。

<広報用資料より>



展示風景（第1展示室）

会 期 平成25年5月17日～6月16日（27日間）
会 場 第1・第2展示室
主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
展示内容 森正洋氏デザインの陶磁器等

1. 森正洋のあゆみ
 2. 森デザインを体験
 3. 森デザインを見る
- 計 920 件 1276 点

展示解説 5月25日（日）14：00～15：00
学芸課主事 山本文子

関連行事

- ・ 人気投票～あなたが選ぶ森デザイン
- ・ 森作品を味わう

～森正洋デザインの食器を用いたメニュー～

〈開催日〉平成25年5月21日～6月16日の会期中

入 館 者 3,934 人 1 日平均 146 人



展示風景（テーブルコーディネート）

(3) 新収蔵品展Ⅱ

趣 旨

平成24年度に寄贈を受け、新たに館蔵品となった陶磁器作品200件（249点）を展示する「新収蔵品展Ⅱ」を下記のとおり開催します。

今回は、古伊万里様式「染付水葵文輪花大鉢」、「色絵松竹梅鶴亀文輪花皿」や平戸焼「染付桜折枝文燭台」などの肥前の陶磁器、筑前・高取焼「鉄釉手付鉢」や肥後・小代焼「鉄釉白釉流瓶掛」などの九州の陶磁器のほか、備前焼「焼締四耳壺」などさまざまな陶磁器が楽しめます。

また、十四代今泉今右衛門氏（1962～）（2011年度日本陶磁協会賞受賞）の「色絵薄墨墨はじき雪文鉢」や神田和弘氏（1967～）の「集い」（第109回九州山口陶磁展第1部 第1位受賞作）などの現代作家による作品も御紹介します。

<広報用資料より>

会 期 平成25年6月21日～7月15日（22日間）
会 場 第2展示室
主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
出品概要 肥前・唐津焼の陶器

- 肥前・古伊万里様式の磁器
 - 肥前・鍋島藩窯様式の磁器
 - 九州の陶磁（長崎・福岡・熊本・鹿児島・沖縄）
 - 明治以降の陶磁器（佐賀）
 - 明治以降の陶磁器（九州）
 - 九州以外の陶磁器
 - 中国・朝鮮などアジアの陶磁器
 - 現代作家作品
- 計 200 件 249 点

展示解説 平成25年6月29日（土） 14：00～15：00
学芸課主幹 徳永貞紹

入 館 者 2,517 人 1 日平均 114 人



展示風景



展示風景

(4) 第31回 新工芸西九州工芸展

趣 旨

日本新工芸西九州会は、未来を明示できる新しい工芸の造形美を追求して参りました。

各々の素材を生かし、技術を駆使した個性の表現を求め、日々努力を重ねています。

このたびも皆様の暖かいご支援のお蔭をもちまして第31回展として開催する運びとなりました。「美と生活の調和」をテーマに技と心を注ぎ込み、更なる飛躍を目指した作品を展示いたしております。

多くのかたがたのご批判をあおぎ、新しい工芸家の育成につとめ、地方文化の一助になれば幸いです。

ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

<日本新工芸西九州会 会長 白武初芳氏 あいさつより>

みずみずしい青葉の美しい日に九州陶磁文化館長を迎え、四名の審査員により丁寧な審査が行われた。公募作はバラエティに富んだ意欲的な作品が多く、特に人形と高校生の作風に爽やかな感性がうかがわれ今後が期待される。

大賞の「蒼波」は落ち着いた色調の中に、青と黒の組み合わせによる流れが全体のバランスと力強さを感じさせ重厚感が評価された。

<審査委員長 前田泰昭氏 作品講評より>

会 期 平成25年6月26日～7月7日(11日間)
 会 場 第1展示室
 主 催 日本新工芸西九州会
 後 援 佐賀県企業メセナ協議会・
 佐賀県・佐賀県立九州陶磁文化館

出品概要 34点
 (陶器15点 磁器8点 染色3点 人形6点
 漆1点 截金1点)

出品目録 B5版4ページ

入館者 1,199人 1日平均109人

審査員 前田泰昭 日展評議員・日本新工芸家連盟副会長
 小川泰彦 日展会員・日本新工芸家連盟顧問
 高木清次 日展会友・日本新工芸家連盟監事
 鈴田由紀夫 佐賀県立九州陶磁文化館長



大賞(九州新工芸会長賞) 「蒼波」
 吉澤秀幸

受賞者

賞	入賞作品名	氏名	住所
大賞(九州新工芸会長賞)	(陶器) 蒼波	吉澤 秀幸	大村市
佐賀県知事賞	(漆) 明けの明星	古川 七三人	八女市
佐賀県立九州陶磁文化館長賞	(陶器) 湧	猪立山 正史	福岡市
〃	(陶器) 流動2013-II	三輪 廉浩	唐津市
〃	(人形) 夢見るパピヨン	米原 佐代子	大村市
奨励賞	(磁器) にわとりさん	岡部 美智子	有田町
〃	(人形) 子守り唄	岸川 理恵子	嬉野市
〃	(陶器) 細雪	古川 凜	有田町
〃	(染色) 生命の賛歌	山下 常子	小城市

(5) 第22回 陶千坊展

趣 旨

陶千坊展は、初め、県立窯業大学校の絵付研修修生による展覧会として始まりましたが、今では、「子どものように純真・純粋な心で焼き物を制作する仲間として集い、自由でかつ達な運営により相乗的な技術向上と発展を目指す」を趣旨として開催される陶芸展です。

九州陶磁文化館では、九州の陶芸文化の振興を図ることを目的に当該陶芸展を下記のとおり後援しており、第22回となる今回は、19名の陶芸家が自慢の新作を披露されます。

<広報用資料より>



展示風景



展示風景

会 期 平成 25 年 7 月 9 日～7 月 15 日 (7 日間)
会 場 第 1 展示室
主 催 陶千坊
後 援 佐賀県立九州陶磁文化館
展示内容 陶芸作品全般 (オブジェ、器、陶人形等)
19 人 332 点を展示
入 館 者 948 人 1 日平均 135 人

(6) 第27回 現代工芸美術九州会展

趣 旨

私たちの現代工芸美術家協会九州会は、半世紀以上に亘り現代工芸運動を国内外に展開し続けている本部会の主張を軸に九州の地で誕生し、活動してまいりました。そして今回で第27回展を開催することが出来ました。これもひとえに皆様の変わらないご支援・御厚情の賜と我々九州会一同深く感謝致しております。

思えば、この半世紀の間に私達作家の置かれている環境は様々な変遷を経てまいりました。それにともない表現素材も多種多様となり、テーマも時代を反映するものとして、大切な意味を持つものとなりました。しかしながら、1961年の現代工芸創立当初の基本理念である「作者自身の内なる想いの表現に重きを置く」という考え方は現在でも脈々と九州会の作家の中にも受け継がれているものと思っております。

この第27回展も九州一円より個性豊かな工芸作品を公募し、新しい作家の登竜門として重要な役割を担っております。あわせて会に所属する作家の日々の研鑽により、地方文化の発展に多少なりとも貢献できるものと確信いたしております。皆様御高覧の上御指導、御鞭撻の程賜りますようお願い申し上げます。

<現代工芸美術家協会九州会 会長 青木清高氏 あいさつより>

会 期 平成 25 年 7 月 21 日～7 月 28 日 (7 日間)
会 場 第 1 展示室
主 催 現代工芸美術家協会九州会
後 援 佐賀県・福岡県・鹿児島県・長崎県・熊本県
宮崎県・大分県・沖縄県・有田町・
佐賀県立九州陶磁文化館
出品概要 68 点 (陶磁、染織、人形、七宝、紙、ガラス、
革)
出品目録 B5 版 4 ページ
入 館 者 882 人 1 日平均 126 人



青木龍山賞 「氷雪の世界」
松尾博之

受賞者

賞	氏名	題名	住所
青木龍山賞	松尾博之	氷雪の世界	佐賀県
現代工芸美術家協会九州会会長賞	高鶴享一	黄風	福岡県
佐賀県知事賞	寺崎康子	空になる	佐賀県
福岡県知事賞	本田宗也	飛天	福岡県
鹿児島県知事賞	久保淑子	雲の丘-2013・I	鹿児島県
長崎県知事賞	竹内清美	あざやかな記憶	宮崎県
熊本県賞	秋永尚子	海中散歩	熊本県
宮崎県知事賞	大畑桃子	蒼天	宮崎県
大分県知事賞	藤田晃一	朝焼け	福岡県
沖縄県知事賞	江口敬生	夏球	沖縄県
佐賀県立九州陶磁文化館長賞	今村肇	薫風	佐賀県
有田町長賞	益田笑利	源	熊本県

(7) テーマ展 夏休み

やきものバードウォッチング

趣旨

鳥は、古くから身近な生き物です。狩猟対象のほか、季節を感じたり、さえずりや姿の美しさを鑑賞したり、ペットとして付き合い、ときには神の使いや縁起ものとしても大切にされてきました。

ペットブームが起きた江戸時代には、鳥の飼育が普及し、人々に親しまれる鳥の種類も飛躍的に増えて、江戸時代に有田焼（古伊万里）にも、鳥の形や文様の多彩な作品が見られます。

今回は、この鳥にスポットをあて、「夏休み やきものバードウォッチング」と題して、古伊万里から現代作品まで、やきものに表現された鳥たちを集めた展示会を開催します。

<広報用資料より>



展示風景

会期 平成25年8月3日～9月1日（26日間）

会場 第1展示室

主催 佐賀県立九州陶磁文化館

展示内容 鶴、鷺、雉など実在の鳥や、鳳凰など空想上の鳥などを表した、江戸時代から現代までの陶磁器を展示。

1. 鶴・千鳥
 2. 野山・ペットの鳥
 3. 水辺の鳥
 4. 松本佩山の鳥
 5. 痴陶人の鳥
 6. 鳥？
 7. ユニークな鳥
 8. 鳥をさがそう
- 計64件108点

展示解説 8月10日（土）14：00～15：00

学芸課主事 山本文子

関連行事 ・夏休み子どもイベント

「鳥をさがそう！かこう！ジグソーパズルとマイ風鈴づくりに挑戦！」

〈開催日〉8月9日（金）・10日（土）

両日とも10：00～11：45

〈参加費〉500円 〈対象〉小学生

〈募集方法〉事前に電話で参加受付

〈参加者〉9日：7名 10日：16名

・夏のイベント

「マイ風鈴を作ろう！」

〈開催期間〉7月20日（土）～9月1日（日）

参加者89人

入館者 2,721人 1日平均105人



展示解説



子どもイベント（ジグソーパズル）



子どもイベント（スケッチ）



子どもイベント（風鈴づくり）

（8）第12回 伊万里・有田焼伝統工芸士展

趣 旨

伝統工芸士とは、経済産業大臣認定の資格制度で、伝統工芸品製作の認定試験に合格した技術者のことです。伊万里・有田焼は経済産業大臣によって伝統的工芸品として指定されており、現在、「ろくろ部門」、「下絵付け部門」、「上絵付け部門」で、合わせて約 90 名の伝統工芸士が活躍されています。

当展は、伊万里・有田焼の製作に関わる伝統工芸士の方々の作品を一堂に展示し、その優れた技術と活動を紹介いたします。

<広報用資料より>

会 期 平成 25 年 9 月 7 日～9 月 23 日（16 日間）
 会 場 第 1 展示室
 主 催 伊万里・有田焼伝統工芸士会
 後 援 （財）伝統的工芸品産業振興協会

佐賀県陶磁器工業協同組合
 佐賀県立九州陶磁文化館
 出品概要 会員 91 人による作品約 100 点を展示
 入 館 者 2,519 人 1 日平均 157 人



展示風景



実演風景

(9) 特別展

江戸のモダニズム 古武雄

—まぼろしの九州のやきもの—

趣 旨

江戸時代、肥前・武雄地域で創出されたかつてない様式美のやきもの。躍動感あふれるデザインや大胆な色づかいで飾られ、「やきもの王国」九州の中にあってもひとときわ个性化的に輝く陶器は、近年、「古武雄」の名で知られるようになりました。

豪快な屏風絵のように力強く大胆な筆使い、コントラストが効果的でリズムカルな連続文様、即興的に掛け流した色鮮やかな釉など、多彩な表現は、まるでいろいろな作風の絵画のよう。現代アートにも通じるような斬新な表現は「江戸のモダニズム」と称されるなど、その芸術性が高く評価されつつあります。

武雄 TAKEO が生んだ独創的で華やかなやきもの「古武雄 KODAKEO」の美。今回の展覧会では、選りすぐりの逸品を公開し、古伊万里など同時代のやきものとの比較も交えて「古武雄」の魅力をあますところなくご紹介いたします。

<広報用資料より>



展示風景（第1展示室）



展示風景（第1展示室）

会 期 平成25年10月5日～11月24日（46日間）

会 場 第1・第2展示室

主 催 佐賀県立九州陶磁文化館

観 覧 料 無料

出品概要 1.単色釉・単色彩と緑褐釉・緑褐彩

—緑と褐色の釉が織り成す文様

2.象嵌

—埋め込まれた白土の文様

3.鉄絵緑彩

—緑と褐色の絵付け文様

4.刷毛目・打ち刷毛目・白泥

—刷毛や筆を用いた白化粧の文様

計85件85点

展示解説 10月5日（土）より毎週土曜日

14：00～15：00

関連催事 ・古武雄茶会

裏千家 南宗紅社中 南圭子氏

〈開催日〉10月5日（土）12：00～

特別イベント

・武雄の荒踊（国重要無形民俗文化財）

〈開催日〉10月20日（日）14：00～14：30

出演：高瀬荒踊保存会

・「ジャズ in 九陶ナイト

—ジャズとやきものと佐賀ん酒—

〈開催日〉11月3日（日）

受付/18：00 開演/19：00～

ピアノ 月岡翔生子氏

ベース 丹波肇氏

ドラム 高橋幹夫氏

・「古伊万里とチェンバロの出会い

～悠久のバロックの響き～

〈開催日〉11月17日（日）

[1] 15：00～16：00

[2] 19：00～20：00

チェンバロ演奏：明楽みゆき氏

入 館 者 9,101人 1日平均198人

展示図録 A4版・104ページ

九州国立博物館 編集・発行



展示解説



展示風景（第2展示室）



展示風景（第2展示室）



古武雄茶会



武雄の荒踊り



ジャズコンサート



チェンバロコンサート

(10) 新春展 「干支 馬の文様」

趣 旨

九州陶磁文化館では、平成 26 年の干支である“馬”にちなんで、馬の置物や馬の文様の陶磁器などを展示・紹介する新春展「干支 馬の文様」を下記のとおり開催します。

“馬”は、馬形の埴輪をはじめ、古来より美術工芸品の中で象られ、描かれてきました。今回の新春展では、鮮やかな色彩で桜樹と花の下で群れ遊ぶ馬が描かれている「色絵桜樹群馬文八角壺・広口瓶」や、それぞれ姿態の異なる群馬が染付による絵画調の表現で描かれている「色絵群馬文変形皿」など、約 40 件を展示します。

< 広報用資料より >



展示風景

会 期 平成 25 年 12 月 14 日～平成 26 年 1 月 13 日
(26 日間)

会 場 第 1 展示室
主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
展示内容 1.春と馬

- 2.干支と馬
 - 3.群馬・騎馬
 - 4.馬？それともロバ？
 - 5.馬と猿は仲良し
 - 6.瓢箪から駒
 - 7.吉祥の馬
- 計 41 件 113 点

展示解説 平成 26 年 1 月 11 日 (土) 14 : 00～15 : 00
学芸課係長 藤原友子

入 館 者 2,005 人 1 日平均 77 人



展示解説

(11) 第 45 回 有田工業高等学校卒業制作展

趣 旨

本校は工業の原点である「ものづくり」を通して、創造的で、行動力に満ちた、他者への思いやりの心を持つ人間性豊かなスペシャリストの育成を目指しております。

作品は若者の特権である柔軟な発想、鋭い感性をもって、多種多様な分野に果敢に挑戦して制作したものです。内容につきましてはまだまだのところがあると思いますが、ご指導、ご鞭撻を賜りたいと存じます。

この作品展は、45 年前デザイン科のみでスタートしましたが、平成元年よりセラミック科が加わり年ごとに充実し、西暦 2000 年には創立 100 周年を機に本校の一層の発展を期して全校・全学科をあげて開催することになりました。

そして、今年度は創立 113 年にあたり、今後も「ものづくり」の有工、「ものづくり魂」を育む有工の更なる飛躍を目指す所存でございますので、ご理解とご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

< 開催要項より >

会 期 平成 26 年 1 月 21 日～1 月 26 日 (6 日間)
会 場 第 1 展示室および展示ホール
エントランスホール・会議室

主 催 佐賀県立有田工業高等学校
後 援 佐賀県立九州陶磁文化館
出品概要 生徒 226 名による作品約 500 点

展示内容 全日制・定時制・聴講生全学科の卒業生が
課題研究で取り組んだ作品を中心に展示

課題研究発表会

【デザイン科】 1 月 23 日 9 : 00～15 : 00

【セラミック科】 1 月 24 日 8 : 30～13 : 00

対象: 全校生、一般

場所: 九州陶磁文化館講堂

入 館 者 2,481 人 1 日平均 414 人



展示風景 (第 1 展示室)



展示風景（エントランスホール）



展示風景（第1展示室）

（12）第32回 西松浦郡小・中学校学童美術展

趣 旨

本美術展を通して、子どもたちの造形的な創造活動の能力を伸ばすとともに、創造の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。

保護者および地域住民の皆様には、子どもたちの学習の成果を公開し、幅広く学校教育および造形教育への理解と協力を願う。

地域の特性を生かした作品を展示することにより、子どもたちの地域社会への興味を喚起し、伝統文化を継承し、発展させようとする高い志を育む。

<開催要項より>



展示風景

（13）第25回 九州陶磁器デザイナー協会展

趣 旨

若いメンバーが増え、DAKTも活動を若手とシニアに一部2分化して、刺激し合い活性化を図るための構造の組み換えをして1年目です。改めて会の内外に向けて、自分の仕事の紹介を行います。

そして、それだけではアウトプットとして弱いので、「一構想から価格」というサブタイトルを付けました。デザイン・商品開発にとって「ものの良しあし」「コンセプト」と共に、「価格」の問題は、切っても切れないものです。

巷の物作りでは、コンセプトより先に価格の設定がこの始まりということも珍しくない昨今です。

また、物の価値を、「生産性」「流通」「嗜好性」「希少性」「欲求」「使用頻度」等と併せて考えてもらう上で、価格を作品と共にキャプションの中に「市場価格」として掲げることは、大変意味があることだと考えました。もちろん「非売」もあり得ます。

<開催要項より>

会 期	平成 26 年 1 月 28 日～2 月 2 日（6 日間）
会 場	第 1 展示室
主 催	有田町教育研究会 図工・美術部会
共 催	有田町教育委員会
後 援	佐賀県立九州陶磁文化館
展示内容	日々の授業の中から生まれた、子どもたちの図工・美術作品全般。 展示作品は、郡や県の審査会で、特に優秀と認められた平面作品と立体作品で、有田町内の小学校 4 校、中学校 2 校から出品された児童・生徒の作品の中から選抜されている。 （絵画、デザイン、線描、立体の 4 部門）
作 品 数	平面作品（県特選、県準特選） 51 点 立体作品（県特選、県準特選、郡特選） 169 点 計 220 点
入 館 者	2,144 人 1 日平均 357 人

会 期	平成 26 年 2 月 4 日～2 月 9 日（6 日間）
会 場	第 1 展示室
主 催	九州陶磁器デザイナー協会
後 援	佐賀県立九州陶磁文化館
出品内容	テーマ：私の仕事…今（構想から価格まで） 21 名の会員各自による作品約 300 点
入 館 者	1,189 人 1 日平均 198 人



展示風景

(14) 第29回 有田陶交会展

趣 旨

有田陶交会は、有田焼の製造に携わる窯元の青年たち（30～40歳代）で構成された団体です。この度、同会の主催により、第29回有田陶交会展「有田窯元戦隊 帰ってきたイロレンジャー ～熱く燃やせ！窯の炎！心の炎！～」が下記のとおり開催されます。

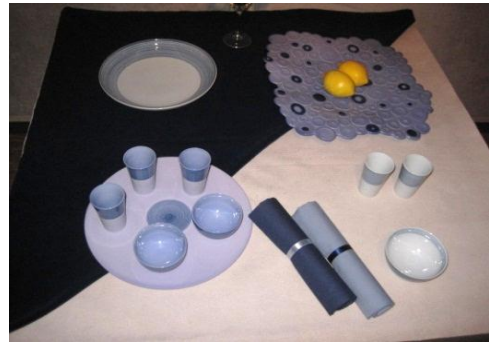
昨年に引き続き、有田焼の多彩な色彩を、イロレンジャーという架空の戦隊ヒーローに例えて分かりやすく紹介し、その魅力を御堪能いただきます。普段伝統工芸に馴染みのない若い世代にも親しみを感じていただける展覧会です。

<広報用資料より>



展示風景

会 期	平成 26年 2月 11日～2月 16日（6日間）
会 場	第1展示室
主 催	有田陶交会
後 援	肥前陶磁器商工協同組合 佐賀県陶磁器工業協同組合 佐賀県立九州陶磁文化館
出品概要	有田陶交會に参加している12窯元により制作発表される作品約100点。
入 館 者	1,107人 1日平均185人



展示風景

(15) 第28回 有田窯業大学校卒業制作展

趣 旨

学生が真摯に窯業技術の習得に取り組んだ学生生活の集大成である「卒業制作」の作品を展示し、来訪者の意見、アドバイスをいただくことにより、学生の今後の制作活動に役立てることを目的とする。

<開催要項より>

会 期	平成 26年 2月 18日～2月 23日（6日間）
会 場	第1展示室および展示ホール、エントランス、茶室
主 催	佐賀県立有田窯業大学校 第28回卒業制作展実行委員会
後 援	有田町、公益財団法人窯業教育振興会、 佐賀県立九州陶磁文化館
協 力	全国陶磁器フェア IN 福岡実行委員会
展示内容	学生21名による作品約100件300点 (食器、花器、オブジェ、装飾品、有田の伝統技法による飯碗・皿・湯呑など)
入 館 者	1,585人 1日平均264人



〈優秀賞〉

「野草染錦「野ぶどう・笹」



展示風景（第1展示室）

(16) チームラボと佐賀

巡る！巡り巡って巡る展

趣 旨

県では、様々な文化・芸術を対象に、県民の皆様が日常的に文化・芸術に触れ、楽しんでいただけるような取組を進めています。

今回は、世代を越えて楽しんでいただける新たな領域の文化・芸術分野として、近年関心が高まっている“デジタルアート”に焦点をあて、下記のとおり、同時期に県内4会場で『チームラボと佐賀 巡る！巡り巡って巡る展』を開催します。

この展覧会は、芸術性の高いデジタルアート作品を数多く制作し、国内外で高い評価を受けているウルトラテクノロジスト集団“チームラボ”の作品を一堂に集めた展覧会で、このような大規模のものは国内初となります。

また、鑑賞機会が少ないデジタルアート作品を身近な場所で、より多くの方々に触れていただけるよう、同時期に同じ「デジタルアート」をテーマとして、4会場それぞれに異なる作品を展示する初めての試みです。

<広報用資料より>

会 期 平成26年2月28日～3月22日(20日間)
会 場 第1・第2展示室
主 催 佐賀県
共 催 読売新聞社、FBS福岡放送、RKB毎日放送、STSサガテレビ、佐賀新聞社

特別協力 ソニー株式会社

企画協力 チームラボ

観 覧 料 (1) <一般>

大人 500円(※単館)

(2) <一般(全館共通)>

大人 1200円(※全館共通・・・県立美術館・県立名護屋城博物館・県立宇宙科学館・九州陶磁文化館の4館共通)

展示内容 デジタルアート3作品

- ・冷たい生命
- ・生命は生命の力で生きている
- ・世界はこんなにもやさしく、うつくしい

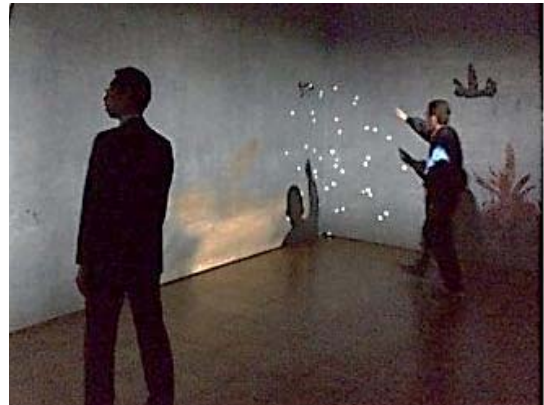
ギャラリートーク 平成26年3月8日(土) 15:30～

チームラボ代表 猪子寿之氏

入 館 者 7,212人 1日平均361人



展示作品「冷たい生命」
「生命は生命の力で生きている」



展示作品 (世界はこんなにもやさしく美しい)



ギャラリートーク

3. 利用状況

◎月毎の入館者数

月	開館日数	入館者数
4月	26	5,968
5月	28	7,325
6月	26	3,073
7月	27	3,001
8月	27	2,773
9月	27	3,617
10月	28	4,792

月	開館日数	入館者数
11月	27	5,320
12月	25	1,818
1月	28	5,265
2月	24	5,402
3月	26	8,278
合計	319	56,632
平均	27	4,719

◎展覧会別の入館者数（開催順）

No.	展 覧 会 名		会 期	入館者数
1	第110回 九州山口陶磁展		4/29～5/9	7,830
2	新収蔵品展Ⅰ 森正洋 使う器展	主催	5/17～6/16	3,934
3	新収蔵品展Ⅱ	主催	6/21～7/15	2,517
4	第31回 新工芸西九州工芸展		6/26～7/7	1,199
5	第22回 陶千坊展		7/9～7/15	948
6	第27回 現代工芸美術九州会展		7/21～7/28	882
7	テーマ展 夏休み やきものバードウォッチング	主催	8/3～9/1	2,721
8	第12回 伊万里・有田焼伝統工芸士展		9/7～9/23	2,519
9	特別展 江戸のモダニズム 古武雄 —まぼろしの九州のやきもの—	主催	10/5～11/24	9,101
10	新春展 干支 馬の文様	主催	12/14～1/13	2,005
11	第45回 有田工業高等学校卒業制作展		1/21～1/26	2,481
12	第32回 西松浦郡小・中学校学童美術展		1/28～2/2	2,144
13	第25回 九州陶磁器デザイナー協会展		2/4～2/9	1,189
14	第29回 有田陶交会展		2/11～2/16	1,107
15	第28回 有田窯業大学校卒業制作展		2/18～2/23	1,585
16	チームラボと佐賀 巡る！巡り巡って巡る展		2/28～3/22	7,212
	合 計			49,374

※春期茶道具名品展（H25/3/19～4/7）についてはH24年度の年報に報告済み。

4. 館蔵資料の貸出

No.	事業・展覧会	展示期間	貸出先	貸出件数
1	来賓室、副知事室に展示	H25.3.31～ H26.3.31	佐賀県秘書課	2件2点
2	常設展示「日本列島と朝鮮半島との交流史」に出品	H25.4.8～ H26.3.31	名護屋城博物館	5件6点
3	佐賀県教育長室に展示	H25.4.1～ H26.3.31	佐賀県教育庁	1件1点
4	「ドール展～マイ ドール！マイ ヒーロー！」に陳列	H25.7.19～ 9.17	佐賀県文化課	6件7点
5	佐賀城本丸歴史館御玄関における「県内博物館施設 PR コーナー」展示	H25.7.25～ H26.3.31	佐賀県立佐賀城本丸歴史館	4件8点
6	特別展「酒器の玉手箱」に出品	H25.9.15～ 12.26	滋賀県立陶芸の森	8件17点
7	「魅惑の清朝陶磁」展に出品	H25.9.20～ H26.10.20	読売新聞大阪本社 京都国立博物館 長崎歴史文化博物館 奥田元宋・小由女美術館 パラミタミュージアム	8件18点
8	平成 25 年秋季特別展九州陶磁文化館名品展「華やぎの九州陶磁」に出陳	H25.9.20～ 12.25	一般財団法人 今日庵茶道資料館	100件139点
9	企画展「アジアが初めて出会った有田焼」展に展示	H25.9.10～ 12.20	有田町歴史民俗資料館	陶片16点
10	人間国宝 四人展 展示	H25.11.18～ H26.1.27	株式会社サガテレビ	3件3点
11	「ふでばこ 28 号」(特集 有田焼・11 月 20 日発行)に掲載する、磁器と食文化の関わりを解説する写真の撮影	H25.10.8	株式会社白鳳堂	21件59点
12	「IMARI/伊万里 ヨーロッパの宮殿を飾った日本磁器」出品	H26.1.6～ 12.15	読売新聞大阪本社 大阪市立東洋陶磁美術館 サントリー美術館 松本市美術館	9件12点
13	武雄市図書館・歴史資料館 特別企画展「九州の蘭学 武雄の蘭学」での展示	H26.1.10～ 3.31	武雄市教育委員会	7件7点
14	佐賀県とオランダ王国大使館との共同プロジェクト調印式に展示(場所:駐日オランダ王国大使館)	H25.10.30～ 11.2	佐賀県有田焼 400 年事業 推進チーム	2件2点
15	陶磁ネットワーク会議共同企画展「やきものって何ダ?—陶芸美術館 8 館の名品に学ぶ—」展示	H26.2.15～ H27.6.10	「やきものって何ダ」展 全国実行委員会	27件88点
平成 25 年度 貸出数		203 件 369 点 陶片点数はのぞく		

5. 資料閲覧・写真撮影・フィルム借用・印刷物等掲載・複製申請処理

平成 25 年 4 月 1 日～26 年 3 月 31 日 137 件 (1,793 点)

※この他、施設としての写真撮影・フィルム借用・印刷物掲載が 33 件 79 点ありました。

教育普及活動

1. 展示案内

団体案内は予約制だが、要望に応じて随時対応している。

平成 25 年度 展示案内実施回数

月	実施回数					人数						
	学芸 (館長・ 顧問)	総務	嘱託			計	学芸 (館長・ 顧問)	総務	嘱託			計
			小計	予約	予約なし				小計	予約	予約なし	
4月	12	0	0	0	0	12	192	0	0	0	0	192
5月	21	0	1	1	0	22	276	0	18	18	0	294
6月	21	0	3	3	0	24	417	0	52	52	0	469
7月	14	0	4	3	1	18	185	0	59	55	4	244
8月	7	0	1	1	0	8	76	0	36	36	0	112
9月	9	0	9	7	2	18	98	0	328	239	89	426
10月	20	1	17	16	1	38	362	3	447	446	1	812
11月	20	0	16	15	1	36	386	0	331	321	10	717
12月	3	0	4	3	1	7	9	0	54	34	20	63
1月	6	0	6	6	0	12	93	0	103	103	0	196
2月	10	0	4	4	0	14	87	0	26	26	0	113
3月	2	0	6	6	0	8	40	0	277	277	0	317
	145	1	71	65	6	217	2,221	3	1,731	1,607	124	3,955

平成 25 年度 団体観覧

	展示案内		自由観覧		学校行事観覧		合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
4月	3	83	7	228	1	62	11	373
5月	7	179	6	277	5	162	18	618
6月	7	220	6	255	3	116	16	591
7月	4	104	8	203	1	25	13	332
8月	3	91	4	117	0	0	7	208
9月	6	249	5	146	2	92	13	487
10月	15	527	12	389	3	118	30	1,034
11月	15	507	15	758	1	142	31	1,407
12月	2	40	3	82	1	31	6	153
1月	2	52	3	127	19	1,148	24	1,327
2月	1	23	10	432	3	92	14	547
3月	3	78	9	345	6	344	18	767
計	68	2,153	88	3,359	45	2,332	201	7,844

*学校行事観覧(団体)は、案内の有無に関らず記載

2. 陶芸実習室の使用

(1) 陶芸実習室利用規程

●目的

陶芸教室受講修了者でさらに高度の陶技を会得し、陶芸文化に対する関心をより深めることを希望する者に対して、陶芸実習施設を提供する。

●利用資格

九州陶磁文化館の陶芸教室受講修了者で、この利用による活動が営利を目的としない者。

●利用日時

<窯焼成以外の作陶作業>

原則として、開館日の午前9時～午後4時。

ただし、陶芸教室開催中は受講生の活動を妨げてはいけない。また、館の行事等の都合により利用を断ることがある。

<窯焼成>

原則として、職員が勤務する閉館日。

●利用申請

施設を利用するものは「九州陶磁文化館施設等使用申込書」を原則として1か月前までに提出し、承認を得ること。その際の承認機関は原則として1か月以内とする。

2 窯の利用についても同様に承認を受けなければならないが、その詳細は別に定める。

(2) 電気窯利用要領

この要領は、九州陶磁文化館（以下、館）に設置する陶芸用電気窯の利用方法を定める。

●申込

館の施設等の使用に関する取扱要領に定められた「九州陶磁文化館施設使用等使用申込書（以下、申込書）」で、原則1か月前までに行う。

2 申込はグループまたは個人で行い、連絡先の欄には、必ず連絡先の明確な申込代表者以外の者が署名する。

3 申込者は、申込に関する責任を負う。

4 申込者が何らかの理由で申込した窯焼成に係る責任を負えなくなった時には、連絡先に署名した者が申込者に代わって、その責を負う。

●作業

窯詰め作業は利用者が行い、すべての焼成利用者の名前を作業日誌に必ず記録する。また、窯出し作業も利用者が行う。

2 電気使用料のメーターは、利用者代表または利用者が確認し、備付けの作業日誌及電気窯使用簿へ必要事項とともに必ず記入する。

3 電気窯のスイッチの操作は館職員が行う。

●電気料

電気窯の利用者は、その使用により消費した電気料金を館へ支払う。

2 電気料金は、館が各利用グループまたは個人ごとに集計し、一年度に一回、年度末に一括して請求する。

●注意事項

利用者は施設利用前に事務室に届け出、利用後は、利用日誌に記入して職員に報告する。

2 室内の清掃、道具の整理にはとくに留意する。

3 施設を利用する者は、施設及び備品の使用を、各自で互いに話し合い適切に使用すること。

4 施設備品以外の消耗品、その他に要する経費は本人が負担する。

5 備品の使用についてはとくに注意し、破損した場合は、協議のうえ弁償する。

6 作品の焼成は職員が窯のスイッチを入れる。

7 上記の注意事項を守らない者については、利用を断ることがある。

施行する。

●附則

この規程は、平成25年5月28日から施行する。

3 電気料金を請求された利用グループ及び個人は、館の定める納入方法で期限までに納付する。

●附則

この規程は、平成25年5月28日から施行する。

(3) 陶芸実習室の利用状況

月	作陶(人)	焼成(回)	
		大窯(本焼)	小窯(素焼)
7	76	1	2
8	91	2	1
9	91	0	2
10	68	2	1
11	96	2	2
12	69	2	1
1	56	0	1
2	79	2	1
3	92	1	1
計	718	12	12

3. 地域主催イベントとの関連催事

(1) 第110回「九州山口陶磁展」関連催事

趣 旨

九州陶磁文化館では有田陶器市の期間に、第1回「九州バザール♪」を下記のとおり開催します。

第110回九州山口陶磁展と併せてお楽しみください。

<広報用資料より>



告知・誘導看板

期 間 平成 25年 4月 29日(月・祝)～5月1日(水)
展示場所 佐賀県立九州陶磁文化館アプローチデッキ
主 催 佐賀県立九州陶磁文化館

内 容 お菓子やカフェ、雑貨やマッサージなどさまざまな個性あふれる約30の店舗が九州陶磁文化館に出現します。
ステージでは、アコースティックライブを開催します。九陶ミュージアムグッズが当たる抽選会(4/29～5/5)も実施します。

関連催事

・アコースティックライブ

〈開催日〉4月29日(月・祝)

ななこが

4月30日(火)

ボギー

5月1日(水)

吉島徳高

・九陶ミュージアムグッズが当たる抽選会

〈開催日〉4月29日(月・祝)～5月5日(日)

抽選会参加者数 3,097人



出店風景



出店風景



抽選風景



アコースティックライブ風景

(2) 第10回「有田雛のやきものまつり」
 関連展示
 第9回「やきものとひなまつり」

趣 旨

九州陶磁文化館では、今回で9回目となる「やきもの
 とひなまつり」を下記のとおり開催します。会場には「柴
 田夫妻コレクション」の寄贈者である柴田祐子氏所蔵の
 古人形（江戸時代～明治時代）と雛道具、当館所蔵の古
 陶磁「色絵菊竹鳥文大皿」、「色絵葦雁東屋文鮑形皿」な
 ど、華やかな作品約200点を展示します。

展示期間中は、「ひなまつりぬりえ展」と題し、有田
 町内の保育園・幼稚園年長児の皆さんが描いた多彩な
 「ひなまつりぬりえ」を展示します。

また、2月1日の「ひなまつり茶会」、「ひなまつり音
 楽会」、「御所人形師・伊東久重氏による講演会」では、
 おひなさまとやきものを鑑賞しながら、お茶会や音楽会
 をお楽しみいただくなど、ご来館のお客様にもご参加い
 ただけるイベントとなっております。もちろん、小さな
 お子様も大歓迎です。

是非、この機会に九州陶磁文化館でやきものとひなま
 つりをお楽しみください。

<広報用資料より>

期 間 平成 25年 1月 28日（火）～3月 23日（日）
 展示場所 展示ホール、柴田夫妻コレクション展示室内
 主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
 展示内容 柴田祐子氏所蔵の古人形と雛道具及び九州
 陶磁文化館所蔵の古陶磁（皿、花瓶など） 約
 200点

関連催事

- ・ひなまつりぬりえ展
 〈開催日〉1月28日（火）～3月9日（日）
- ・ひなまつり音楽会
 〈開催日〉2月1日（土）
 13：30～14：00
 「Shana」の演奏
 14：00～16：00
 柴田夫妻旧蔵レコードの鑑賞
- ・ひなまつり茶会
 〈開催日〉2月1日（土）
 13：30～15：00
 表千家 友田社中
- ・御所人形師・伊東久重氏による講演会
 〈開催日〉2月1日（土）
 14：10～14：40
- ・特別イベント
 「お好きな古伊万里で甘酒を」
 〈開催日〉3月1日（土）
 12：00～16：00



展示風景



ひなまつり
茶会



ぬりえ展
風景



講演会



ひなまつり
音楽会



お好きな
古伊万里で
甘酒を

4. 陶芸文化講座

趣 旨

九州陶磁文化館では、古陶磁を身近で鑑賞し、やきものに関する知識を深めてもらうため、陶芸文化講座を下記のとおり開催します。

今回は、開催に先立ち、参加者の募集を開始しますのでお知らせします。

やきもの見方を知りたい、歴史に触れてみたいなど、陶芸文化に関心をお持ちの方を対象とした講座です。

＜広報用資料より＞

テ ー マ 「九陶の名品をさわる！」

日 時 第1回 平成 26年 2月 22日 (土)

10:00～12:00

第2回 平成 26年 2月 22日 (土)

14:00～16:00

会 場 一般研修室

主 催 佐賀県立九州陶磁文化館



陶芸文化講座

講 師 佐賀県立九州陶磁文化館 学芸員
内 容 古陶磁を手にとってみる際の安全なマナーについて学ぶとともに、九州陶磁文化館が所蔵する古陶磁の名品を実際に手に取って鑑賞していただきます。

また、作品を通して、やきものの歴史的な変遷を解説します。

鑑賞作品 九州陶磁文化館所蔵の古陶磁 10点

(唐津焼、上野焼、有田焼、現川焼、鍋島焼)

対 象 陶芸文化に関心を持つ一般の方 (大学生以上)

定 員 各回 20名ずつ

(応募者が定員を超えたときは、初めて参加される方を優先にして、抽選により決定)

応募方法 往復はがきに、郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加を希望する回を記載する。

応募締切 2月3日 (月) (消印有効)

受講料 500円

参加者 第1回 20名 第2回 20名



陶芸文化講座

5. 博物館実習

趣 旨

博物館実習をする大学生を対象に、館の運営・資料の収集・展示・保管などについて指導する。

カリキュラム

講 義	内 容	時 間
	館の運営の概要と施設の見学	2時間
	展覧会の企画実施について	3.5時間
	陶磁資料の取り扱い方	5時間
	陶磁概論	2時間
	展示案内の方法	3.5時間
	古陶磁の見かた	3.5時間



実習風景

実 習	内 容	時 間
	テーマ展展示実習	6.5時間
	受付・案内業務実習	3時間
	収蔵庫整理	9.5時間
	展示実習	1.5時間
	図書整理	4.5時間
	広報活動について	6.5時間
	展示解説の実務	3時間
	資料整理実習	2時間
	テーマ展イベント	4.5時間
	その他	3.5時間
	カリキュラム合計	64時間

期 間 平成 25年 7月 29日(月)～8月 9日(金)

受 講 者 筑紫女学園大学 1名

九州産業大学 1名

佐賀大学 2名

伊万里高校 1名

(学校事務職員派遣研修者)

計 5名

6. 印刷物等の刊行

(1) 館報「セラミック九州」50号

発行：平成26年3月31日

規格：A4版 8ページ

図版：オールカラー写真・図版32点

内容：平成25度を実施した特別展「江戸のモダン
ズム 古武雄～まぼろしの九州のやきもの～」、
他、テーマ展の報告等。



7. 資料鑑識

本館での鑑識依頼 119組(369件 385点)

※このうち15組(70件)は、平成25年5月3日～4日の
陶器市期間中に開催した「古陶磁相談」時の相談件数。

その他に、手紙等での鑑識依頼 33回あり

※教育委員会関係の鑑識は、調査協力に記載した。

8. 講演など

No.	期日	演題	主催・場所	対象	講師
1	H25.5.22	佐賀錦の未来予想図	主催:佐賀錦振興協議会 場所:ホテルニューオータニ佐賀	佐賀錦振興協議会発足20周年記念式典・平成25年度通常総会	館長 鈴田由紀夫
2	H25.6.20	佐賀の陶磁文化	主催:(財)佐賀県長寿社会振興財団 場所:鹿島市生涯学習センター「エイブル」	ゆめさが大学鹿島校実践課程生	学芸課長 家田淳一
3	H25.7.18	佐賀の陶磁文化	主催:(財)佐賀県長寿社会振興財団 場所:鹿島市生涯学習センター「エイブル」	ゆめさが大学鹿島校実践課程生	学芸課長 家田淳一
4	H25.7.24	17世紀～18世紀の古伊万里の欧州輸出について	主催:大坪塾実行委員会、大坪公民館 場所:大坪公民館	大坪塾生	学芸課係長 藤原友子
5	H25.9.7	有田焼の歴史について	主催:テーブルコーディネート&紅茶教室 ELEGANCE TEA TABLE 場所:藍田荘	テーブルコーディネート・特別講座受講生	館長 鈴田由紀夫
6	H25.9.8	佐賀の風土が生んだ酒と器	主催:佐賀県首都圏営業本部 場所:AKOMEYA TOKYO	AKOMEYA イベント「日本を知らう～佐賀・大分編～」参加者	館長 鈴田由紀夫
7	H25.9.12	肥前の茶器	主催:NPO 法人高遊外茶翁顕彰会 場所:佐賀市歴史民俗館旧古賀家	第7回佐賀おもしろ学講座聴講生	館長 鈴田由紀夫
8	H25.9.18	伝統産業としてのやきもの可能性	主催:ランチ佐賀さかえ会 場所:ホテルニューオータニ佐賀	ランチ佐賀さかえ会会員	館長 鈴田由紀夫
9	H25.10.17	美術文化への関心を高める鑑賞のポイント—「焼き物の鑑賞」を通して—	主催:佐賀県教育センター 場所:佐賀県教育センター	中学校美術科担当教員	館長 鈴田由紀夫
10	H26.1.11	有田焼創業400年へむけて	主催:佐賀県神社庁 場所:佐賀県神社庁	学神社参列者	館長 鈴田由紀夫
11	H26.1.21	九州陶磁の歴史と技術について	主催:佐賀県立有田工業高等学校 場所:九州陶磁文化館	佐賀県立有田工業高等学校セラミック科生徒	学芸課長 家田淳一
12	H26.1.28	佐賀の陶磁文化	主催:(財)佐賀県長寿社会振興財団 場所:アバンセ	ゆめさが大学佐賀校実践課程生	学芸課長 家田淳一
13	H26.2.18	佐賀の陶磁文化	主催:(財)佐賀県長寿社会振興財団 場所:アバンセ	ゆめさが大学佐賀校実践課程生	学芸課長 家田淳一

調査研究活動

1. 調査

No.	期日	目的	調査地	調査者
1	H26.1.25	関コレクション集荷	東京都世田谷区 関正康氏宅	藤原友子
2	H26.3.14～15	特別企画展資料調査・資料修復打ち合わせ	東京都内	家田淳一 藤原友子

2. 調査協力など

No.	期日	内容	場所	依頼	担当者
1	H25.4.8	第30回小石原焼伝統的工芸品展審査	小石原焼伝統産業会館	東峰村 企画振興課 小石原焼陶器協同組合	鈴田由紀夫
2	H25.5.15	第1回唐津焼美術館（仮称）構想検討委員会会議	大手口別館6階 会議室	唐津市教育委員会	鈴田由紀夫
3	H25.5.30	第48回西部工芸展	福岡三越9階 「三越ギャラリー」	日本工芸会西部支部	家田淳一
4	H25.6.18	有田焼創業400年大有田焼フェア実行委員会会議（第3回）	有田商工会議所	有田焼創業400年大有 田焼フェア実行委員会	鈴田由紀夫
5	H25.7.10	第11回日本磁器誕生・有田焼創業400年 事業実行委員会会議	生涯学習センター	日本磁器誕生・有田焼 創業400年事業実行委 員会	鈴田由紀夫
6	H25.7.12	伊万里・有田焼手塩皿 collection 創出プロ ジェクトミーティング	佐賀県陶磁器工業協同 組合	佐賀県陶磁器工業協同 組合	鈴田由紀夫
7	H25.7.23	有田焼創業400年大有田焼フェア実行委員 会会議（第4回）	有田商工会議所	有田焼創業400年大有 田焼フェア実行委員会	鈴田由紀夫
8	H25.8.8	博物館建設の準備に伴う視察	佐賀県立九州陶磁文 化館	長崎県対馬市対馬市教 育委員会文化財課博物 館準備室	藤原友子
9	H25.8.12	有田焼創業400年大有田焼フェア実行委員 会会議（第5回）	有田商工会議所	有田焼創業400年大有 田焼フェア実行委員会	鈴田由紀夫
10	H25.8.28	400年有田の魅力展実行委員会会議（第6 回）	有田商工会議所	400年有田の魅力展実 行委員会	松尾みどり
11	H25.9.13	第1回嬉野市文化財保護審議会	嬉野市歴史民俗資料館	嬉野市教育委員会	家田淳一
12	H25.9.21	テーマ研究「近世・近代の石見焼の研究」 第1回客員研究員検討会	島根県埋蔵文化財調査 センター	島根県古代文化センタ ー	家田淳一
13	H25.10.10	フィリピン国立博物館考古学部研究員の陶 磁器の調査研究に関する研修	佐賀県立九州陶磁文 化館	アジア太平洋文化遺産 研究会	家田淳一
14	H25.10.23	熊本県新屋敷遺跡他、調査指導	熊本県埋蔵文化財調査 室	熊本県文化課	家田淳一
15	H25.10.24～ 27	佐賀知事オランダ王国訪問随行 （ダッチデザイン視察）	アムステルダム国立美 術館 他	佐賀県有田焼400年事 業推進チーム	鈴田由紀夫
16	H25.10.25	佐賀市重要産業遺跡確認調査に伴う遺物調 査指導	佐賀市文化財資料館 ほか	佐賀市教育委員会 社 会教育部 文化振興課	徳永貞紹
17	H25.10.31	第2回唐津焼美術館（仮称）構想検討委員 会会議	大手口別館	唐津市教育委員会	鈴田由紀夫
18	H25.10.31～ 11.2	佐賀県とオランダ王国大使館との共同プロ ジェクト	駐日オランダ王国大使 館	佐賀県有田焼400年事 業推進チーム	家田淳一
19	H25.11.6	佐賀市重要産業遺跡確認調査に伴う遺物調 査指導	佐賀市文化財資料館	佐賀市教育委員会 社 会教育部 文化振興課	徳永貞紹
20	H25.12.2	400年有田の魅力展実行委員会会議（第7 回）	有田商工会議所	400年有田の魅力展実 行委員会	鈴田由紀夫
21	H25.12.10	九州国立博物館「次の10年を考える懇話 会」（第8回）	九州国立博物館	九州国立博物館	鈴田由紀夫
22	H26.1.17	400年有田の魅力展実行委員会会議	有田商工会議所	400年有田の魅力展実 行委員会	鈴田由紀夫
23	H26.1.25	テーマ研究「近世・近代の石見焼の研究」 第2回客員研究員検討会	島根県埋蔵文化財調査 センター	島根県古代文化センタ ー	家田淳一

24	H26.1.30～31	「九州の陶磁」共同研究	大分県埋蔵文化財センターほか	九州国立博物館	徳永貞紹
25	H26.2.19	有田町歴史民俗資料館・有田陶磁美術館協議会	有田町生涯学習センター	有田町歴史民俗資料館	鈴田由紀夫
26	H26.2.25	第3回唐津焼美術館（仮称）構想検討委員会会議	大手口別館	唐津市教育委員会	鈴田由紀夫
27	H26.3.4～5	市内遺跡詳細分布調査及び文化講座	沖縄県名護市教育委員会	沖縄県名護市教育委員会文化課	家田淳一
28	H26.3.26	武雄市文化財保護審議会	武雄市文化会館	武雄市教育委員会	鈴田由紀夫
29	H26.3.27	重要無形文化財（工芸技術）「色鍋島」及び「柿右衛門（濁手）」の調査	今右衛門窯 柿右衛門窯	文化庁文化部伝統文化課	鈴田由紀夫
30	H26.3.28	第12回 日本磁器誕生・有田焼創業400年事業実行委員会会議	大有田焼会館	日本磁器誕生・有田焼創業400年事業実行委員会	松尾みどり

資料収集活動

1. 陶磁資料の収集

平成25年度は寄贈資料など34件63点を収蔵し、総計12,535件23,553点となる。

2. 図書資料の収集

報告書	305
目録	14
紀要	125
海外	15
図録	160
年報	101
一般図書	23
その他	40
合計	783

佐賀県立九州陶磁文化館資料目録 平成 25 年度 (2013. 4～2014. 3)

凡 例

1. この資料目録は、平成 25 年度 (平成 26 年 3 月 31 日現在) の収蔵資料 34 件 63 点 (寄贈・管理換・購入) を掲載した。

寄贈	30 件	59 点
管理換	1 件	1 点
購入	3 件	3 点

平成 25 年度末の館蔵品総数は 12,535 件 23,553 点 である。

2. 「収蔵番号」は、収蔵登録番号と収蔵年度で〈0000-25〉と表示した。

3. 法量の単位はセンチメートルである。

4. 平成 16 年度分類より大区分の一部を変更した。

(1) 「近代資料」(旧：幕末・近代資料)は、以下の 2 項目とする。

130. 佐賀県 近代 (旧：幕末・近代資料 佐賀県)

140. 九州 (県外) 近代 (旧：幕末・近代資料 九州 (県外))

(2) 「九州以外 他」を旧「幕末・近代資料」から分離、新たにつくり時代順とした。

150. 九州以外 近世 (旧 160. 九州以外の陶磁器)

160. 九州以外 近代 (旧 150. 幕末・近代資料 九州以外)

170. 陶磁器関連資料 (文書・図案など)

以上の作業にともない、分類内容を再確認したため、項目により件数の増減がみられるが、総件数は同じである。

5. 平成 25 年度に該当のない分類項目は、目録から省略している。

6. 現代作家作品については、「産地」に「作家名」を入れた。

収蔵番号	資料名	点数	産地	年代	口径	高さ	底径	備考
【021.初期伊万里様式】								
12429	-25 青磁線刻唐草文水指	1	肥前・有田窯	1630～50年代	12.5	17.3	10.5	寄贈 久我大輔
【031.古伊万里・正保様式】								
12447	-25 色絵印判手仙境図文大皿	1	肥前・吉田窯	1650～60年代	41.0	10.6	18.0	購入
12448	-25 色絵印判手獅子文輪花大皿	1	肥前・吉田窯	1650～60年代	36.2	9.4	17.3	購入
【033.古伊万里・寛文様式】								
12426	-25 染付梅樹文瓶	1	肥前・有田窯	1660～80年代	5.6	23.8	8.8	寄贈 久我大輔
12431	-25 染付花卉文瓶	1	肥前・有田窯	1660～80年代	2.1	22.1	7.8	寄贈 久我大輔
12449	-25 陶胎染付雲堂文香炉	1	肥前・有田窯	寛文二年 (1662年)	8.4	6.3	6.2	購入
【034.古伊万里・延宝様式】								
12430	-25 染付葡萄鳥文瓢形水注	1	肥前・有田窯	1660～90年代	2.0(注口)	21.4	9.4	寄贈 久我大輔
12439	-25 色絵岩菊文壺	2	肥前・有田窯	1670～90年代	10.1(左) 10.0(右)	15.1 (左総高) 18.8 (右総高)	8.5 (左) 8.6 (右)	寄贈 長瀬テツ子
【035.古伊万里・元禄様式】								
12441	-25 色絵宮廷遊宴文壺	1	肥前・有田窯	1690～1730年代	16.5 34.7(胴径)	49.8 (総高) 40.9 (身高)	16.9	寄贈 長瀬テツ子
【036.古伊万里・宝暦様式】								
12427	-25 染付雲龍文大鉢	1	肥前・有田窯	1740～70年代	36.3	26.8	17.0	寄贈 久我大輔
12428	-25 絵貼付松樹寿字文樽形水注	1	肥前・有田窯	1740～80年代	1.3(注口) 胴径 13.0	18.0	12.0	寄贈 久我大輔
12432	-25 色絵花卉文輪繫輪花皿	1	肥前・有田窯	1750～70年代	28.6	4.2	15.0	寄贈 久我大輔
【038.古伊万里・文政様式】								
12425	-25 染付瓢箪駒文輪花大皿	1	肥前・有田窯	1820～60年代	47.0	8.8	23.3	寄贈 久我大輔
12435	-25 染付山水梅樹貼付文水指	1	肥前・有田窯 辻窯	19世紀	17.6	18.0	10.5	寄贈 西健一郎
【041.柿右衛門様式】								
12440	-25 色絵虎置物	2	肥前・有田窯	1670～90年代	17.3×15.8 (左) 18.5×12.3 (右)	24.9 (左) 24.0 (右)	12.7 × 10.6 (左) 13.2 × 10.7 (右)	寄贈 長瀬テツ子
12442	-25 色絵赤玉棕櫚文婦人像	1	肥前・有田窯	1670～90年代		35.6	10.2 ×9.7	寄贈 長瀬正憲

【060.長崎の陶磁器】

12433	-25	染付家屋山水文大鉢	1	肥前	1850~80年代	30.5	10.5	16.2	寄贈	久我大輔
12434	-25	染付家屋山水文水指	1	肥前・亀山窯カ	1820~60年代	16.5 蓋径 14.5	16.0 蓋付総 高 19.0 蓋高 3.1	12.0	寄贈	久我大輔
12437	-25	銚釉染付山水文蓋物	1	肥前・亀山窯	1820~60年代	23.8 25.5 (蓋口径)	15.8 (総高) 9.8 (身高)	10.8	寄贈	竹田礎夫
12438	-25	染付人物鯉文水指	1	肥前・亀山窯	文政10年 (1827年)	14.3	15.7	9.2	寄贈	竹田貞子
12445	-25	染付朝顔文手付皿	1	肥前・三川内窯	18世紀	20.8	15.4	14.0 12.0 (足 間)	寄贈	百溪正明

【130.佐賀県 近代】

12420	-25	染付牡丹七宝繫文皿	1	佐賀県カ	明治8年 (1875年)	25.3	5	22.2	寄贈	池田健作
12421	-25	釉下彩桜月文雪輪形小皿	5	佐賀県嬉野町・ 源六焼	明治末	9.0	2.3	4.2	寄贈	池田健作
12422	-25	染付梅月文菱形皿	5	佐賀県嬉野町・ 源六焼	明治末~大正	9.0	2.3	4.2	寄贈	池田健作
12423	-25	色絵萩菊文酒器 (徳利・盃・盃台)	12	佐賀県嬉野町・ 源六焼	昭和初期	徳利 2.7 盃 5.5 盃台 8.1	徳利 13.3 盃 2.6 盃台 1.5	徳利 4.8 盃 1.7 盃台 3.6	寄贈	池田健作
12424	-25	染付山水文隅入角皿	5	佐賀県嬉野町・ 源六焼	昭和初期	11.5×11.7	4.3	5.7	寄贈	池田健作
12436	-25	色絵牡丹文団扇形皿	5	肥前・有田窯 岩井組	明治~大正	16.0×14.7	3.1	9.9× 8.1	寄贈	藤井良明

【160.九州以外 近代】

12416	-25	色絵松帆掛船文変形皿	1	産地不詳	近代(現代)	24.5×22.0	3.9	16.5 × 11.5	寄贈	高取勲生
12417	-25	色絵菊水文鉢	1	産地不詳	近代(現代)	24.5	7.1	14.1	寄贈	高取勲生
12444	-25	色絵紫陽花文鉢	1	石川・大聖寺窯	19世紀 幕末~ 明治	24.2	10	9.2	寄贈	百溪正明

【230.佐賀県 I】

12419	-25	白磁鉢	1	中村清吾 佐賀 県(1975~)	2013年	48.0×47.6	21	12.8	寄贈	中村清吾
12443	-25	釉裏金彩青釉葉文壺	1	小野珀子 佐賀 県(1915~1996)	1970年代	4.9	25.9	9.2	寄贈	溝口京子
12446	-25	色絵花鳥文壺	1	12代 酒井田柿 右衛門 佐賀県 (1878~1963)	昭和前期	11.0 13.8 (蓋径)	28.4 (身高) 35.5 (総高)	12.8	管理換	佐賀県 秘書課

【320.九州以外】

12418	-25	旺	1	叶道夫 京都府 (1948~)	2012年	11.2×10.8	47	18.0× 14.0	寄贈	叶道夫
-------	-----	---	---	--------------------	-------	-----------	----	---------------	----	-----

資料件数一覧

		S53~H24						H25						合計					
		件数			点数			件数			点数			件数			点数		
		購入	寄贈	合計	購入	寄贈	合計	購入	寄贈	合計	購入	寄贈	合計	購入	寄贈	合計	購入	寄贈	合計
近世の肥前陶磁	011. 唐津系陶器	49	228	277	61	257	318	0	0	0	0	0	0	49	228	277	61	257	318
	021. 初期伊万里様式	36	212	248	61	329	390	0	1	1	0	1	1	36	213	249	61	330	391
	030. 古伊万里様式	278	5053	5331	500	12323	12823	3	10	13	3	11	14	281	5063	5344	503	12334	12837
	031. 古伊万里・正保様式	51	167	218	103	268	371	2	0	2	2	0	2	53	167	220	105	268	373
	032. 古伊万里・承応様式	8	283	291	20	462	482	0	0	0	0	0	0	8	283	291	20	462	482
	033. 古伊万里・寛文様式	61	935	996	115	1752	1867	1	2	3	1	2	3	62	937	999	116	1754	1870
	034. 古伊万里・延宝様式	37	832	869	58	1892	1950	0	2	2	0	3	3	37	834	871	58	1895	1953
	035. 古伊万里・元禄様式	86	1418	1504	132	3348	3480	0	1	1	0	1	1	86	1419	1505	132	3349	3481
	036. 古伊万里・宝暦様式	7	429	436	21	1650	1671	0	3	3	0	3	3	7	432	439	21	1653	1674
	037. 古伊万里・天明様式	5	544	549	21	1637	1658	0	0	0	0	0	0	5	544	549	21	1637	1658
	038. 古伊万里・文政様式	23	445	468	30	1314	1344	0	2	2	0	2	2	23	447	470	30	1316	1346
041. 柿右衛門様式	29	86	115	33	197	230	0	2	2	0	3	3	29	88	117	33	200	233	
051. 鍋島藩窯様式	55	136	191	67	404	471	0	0	0	0	0	0	55	136	191	67	404	471	
	小計	447	5715	6162	722	13510	14232	3	13	16	3	15	18	450	5728	6178	725	13525	14250
近世の九州陶磁(県外)	060. 長崎の陶磁器	51	90	141	121	219	340	0	5	5	0	5	5	51	95	146	121	224	345
	070. 福岡の陶磁器	39	167	206	43	182	225	0	0	0	0	0	0	39	167	206	43	182	225
	080. 熊本の陶磁器	31	38	69	61	47	108	0	0	0	0	0	0	31	38	69	61	47	108
	090. 大分の陶磁器	3	1	4	3	1	4	0	0	0	0	0	0	3	1	4	3	1	4
	100. 宮崎の陶磁器	2	1	3	2	1	3	0	0	0	0	0	0	2	1	3	2	1	3
	110. 鹿児島島の陶磁器	62	69	131	63	84	147	0	0	0	0	0	0	62	69	131	63	84	147
120. 沖縄の陶磁器	77	16	93	77	16	93	0	0	0	0	0	0	77	16	93	77	16	93	
	小計	265	382	647	370	550	920	0	5	5	0	5	5	265	387	652	370	555	925
資料 近代	130. 佐賀県 近代	36	787	823	58	1697	1723	0	6	6	0	33	33	36	793	829	58	1730	1788
	140. 九州(県外) 近代	8	82	90	9	231	234	0	0	0	0	0	0	8	82	90	9	231	240
	小計	44	869	913	67	1928	1995	0	6	6	0	33	33	44	875	919	67	1961	2028
九州以外	150. 九州以外 近世	10	314	324	19	437	456	0	0	0	0	0	0	10	314	324	19	437	456
	160. 九州以外 近代	4	142	146	4	247	251	0	3	3	0	3	3	4	145	149	4	250	254
	170. 陶磁器関連資料(文書・図案など)	8	1907	1915	15	2549	2564	0	0	0	0	0	0	8	1907	1915	15	2549	2564
	小計	22	2363	2385	38	3233	3271	0	3	3	0	3	3	22	2366	2388	38	3236	3274
世界の陶磁器	180. 中国の陶磁器	29	300	329	38	421	459	0	0	0	0	0	0	29	300	329	38	421	459
	190. 朝鮮の陶磁器	0	108	108	0	110	110	0	0	0	0	0	0	0	108	108	0	110	110
	200. アジアの陶磁器	0	33	33	0	33	33	0	0	0	0	0	0	0	33	33	0	33	33
	210. ヨーロッパの陶磁器	39	30	69	40	66	106	0	0	0	0	0	0	39	30	69	40	66	106
	220. その他の世界の陶磁器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	68	471	539	78	630	708	0	0	0	0	0	0	68	471	539	78	630	708
現代作家作品	230. 佐賀県 I	48	1633	1681	48	2092	2140	0	3	3	0	3	3	48	1636	1684	48	2095	2143
	240. 佐賀県 II 松本佩山	0	86	86	0	125	125	0	0	0	0	0	0	0	86	86	0	125	125
	250. 長崎県	3	12	15	3	12	15	0	0	0	0	0	0	3	12	15	3	12	15
	260. 福岡県	4	9	13	4	9	13	0	0	0	0	0	0	4	9	13	4	9	13
	270. 熊本県	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	2
	280. 大分県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	290. 宮崎県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	300. 鹿児島県	2	2	4	2	2	4	0	0	0	0	0	0	2	2	4	2	2	4
	310. 沖縄県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	320. 九州以外	2	36	38	2	46	48	0	1	1	0	1	1	2	37	39	2	47	49
	330. 国外	2	14	16	2	15	17	0	0	0	0	0	0	2	14	16	2	15	17
	小計	63	1792	1855	63	2301	2364	0	4	4	0	4	4	63	1796	1859	63	2305	2368
	合計	909	11592	12501	1338	22152	23490	3	31	34	3	60	63	912	11623	12535	1341	22212	23553

佐賀県立九州陶磁文化館年報・資料目録
平成 25 年度 No.33

発行日 平成 26 年 7 月 28 日

編集・発行 佐賀県立九州陶磁文化館

〒844-8585

佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙 3100-1

TEL 0955-43-3681 FAX 0955-43-3324

https://www.pref.saga.lg.jp/web/at-contents/kanko_bunka/k_shisetsu/kyuto.html

E-mail:kyuto@pref.saga.lg.jp

